

平成 29 年度 東三河地域防災協議会受託研究 研究報告書

東三河地域における自主防災組織の活性化に関する研究

—自主防災活動組織の実質化及び継続性の視点からの評価と手法の開発—

平成 29 年度 東三河地域防災協議会受託研究 研究報告書

東三河地域における自主防災組織の活性化に関する研究

2018 年 2 月

研究代表者 大林 博美
豊橋創造大学短期大学部 専攻科福祉専攻 教授

はじめに

近年では、既存の想定を上回る災害の発生など気候変動の影響により、住民自身や地域相互の活動体制をいかに整えるかが重要視されています。「共助」の要となる自主防災組織の活動のあり方が問われ、地域防災の活性化は、自主防災組織と行政が連携して取り組まなければならない大きな課題の一つです。

本研究は、東三河の5市3町村における自主防災会の活性化を目指して、24地区の自主防災組織に対し「防災活動の頻度」や「取組み内容」や「課題」、「課題に対して工夫」や「強みや弱み」等についてアンケート調査を行いました。

また、自主防災会の活性化度を「総合活性化度」として表し、「総合活性化度」の高低値の「自主防災会の課題の特性」を整理し、「総合活性化度」の高い自主防災会と低い自主防災会にアンケート調査を行ない、「自主防災会の活動を促進する要因」、「自主防災会の活動を阻害する要因」を質的に分析しました。

その結果、「住民の災害意識」の普及活動が自主防災会の課題を解決する手掛かりになると考えました。「住民の災害意識」の向上に向けた活動方法のマニュアルを作成するには、一般化されたマニュアルを作成しても、「我が事」として考えにくいので、自主防災会が自治区の環境にあった方法でマニュアル作成が望ましいと考えました。

そこで、災害イメージトレーニングという方法で、2地区で実践を行ないました。その結果、「環境対応の大事さ」、「個人の持つ不安の共有」、そして「近所づきあいの重要性」を2事例から見出すことができ「住民の災害意識の向上」を図る事につながりました。

一人ひとりの地域住民の気づき(課題・対策)が「自主防災会活動の活性化」につながる一つの手法と考えました。

災害に強い地域づくり(自主防災計画から地区防災計画)へとつながるために、災害イメージトレーニングの一定の書式(ワークシート)が必要と考え、自主防災会の活動の活性化するための手順書(災害イメージトレーニングの手引き)を作成しました。内容は、①事前準備 ②概要説明 ③実践方法 1) 地域の理解 2) 災害想定 ③ワークシートとなっています。

私共の研究成果が、住民の自助力や共助力を高める防災活動に役立ていただければ、幸いです。

平成30年2月

研究代表者 大林 博美

豊橋創造大学短期大学部専攻科福祉専攻 教授

目 次

第1章 研究の概要

- 1-1. 本研究の背景
- 1-2. 本研究の目的
- 1-3. 本研究の構成

第2章 地域を取り巻く環境 -人口から見た地域環境-

- 2-1. 東三河の5市3町村の昼夜間の人口の地域の現況
- 2-2. 東三河の5市3町村の転出・転入の地域の現況
- 2-3. 東三河の5市3町村の年齢別(3区分)人口の推移からの地域の現況
- 2-4. 東三河の5市3町村の人口からみた地域防災の課題

第3章 24地区の自主防災会の現状と評価

- 3-1. 調査対象及び選定
- 3-2. 24地区の自主防災会の実態調査
- 3-3. アンケートの回答者属性
- 3-4. 自主防災会の組織の現況
- 3-5. 自主防災会の防災活動の現況
- 3-6. 自主防災会の防災活動の現況のまとめ
- 3-7. 3地区のアンケートからみた自主防災会の活性化の要因

第4章 24地区の自主防災会の課題

- 4-1. 自主防災組織の課題
- 4-2. 「総合活力度」別から見た各自主防災会の課題の特性
- 4-3. 自由記述にみる組織の工夫
- 4-4. 自主防災会の活性化を促進する要因
- 4-5. 自主防災会の活性化を阻害する要因
- 4-6. 自主防災組織の課題のまとめ

第5章 災害イメージトレーニングの実践方法と効果

- 5-1. 災害イメージトレーニングに関連する文献資料
- 5-2. 災害イメージトレーニングの実践事例
- 5-3. 自主防災会の課題に対する災害イメージトレーニングの効果
- 5-4. 災害イメージトレーニングのワークシート作成までのプロセス

第6章 総括

- 6-1. 報告の総括と提言
- 6-2. 今後の研究の課題

参考文献

付録

謝辞

第1章 研究の概要

1章 研究の概要

1-1. 本研究の背景

(1) 近年の気候変動の影響による住民自身・地域相互の活動体制の必要性

近年では、既存の想定を上回る災害の発生など気候変動の影響により、住民自身、地域相互の活動体制をいかに整えるかが重要視され、「共助」の要となる自主防災組織の活動のあり方が問われ、地域防災の活性化は、自主防災組織と行政が連携して取り組まなければならない大きな課題の一つである。

(2) 自主防災組織の法的な特性が抱える地域防災の課題

平成28年4月1日現在、自主防災組織の数は16万1,847組織、カバー率（全国世帯数に対する自主防災組織が活動範囲としている地域の世帯数の割合）は81.7%である。東三河地域は、100%の組織率である（表1-1）。しかし、災害対策基本法で「住民の隣保協同の精神に基づく自発的な防災組織」（第2条の2第2号）と定義され、自主防災組織の構成員には特に公の責任や権利義務というものは発生しない。そこで、地域の防災の要となる自主防災組織活動が実質的に活動しているのか実態を把握し、活性化に向けた取り組みが必要である。

(3) 社会環境の変化、細分化社会による地域コミュニティの変化に伴う防災力低下の懸念

産業構造の変化により細分化社会が生じ、核家族化や高齢者の一人暮らしの増加、少子高齢化、過疎化と人口増加の2極化など、社会環境は大きく変化してきている。防災をめぐる情勢は自主防災組織ができた昭和40年ごろとは異なってきており、地域コミュニティ機能を基本として活動してきた自主防災組織にとって、近年の社会環境の変化は、自主防災会の活動の阻害因子といえる。したがって、今後5年、10年先の社会環境の変化を見据えた、地域の防災活動をしていく必要がある。

(4) 東三河地域の特性からみた自主防災上の課題

東三河地域は、三河山間地域に65歳以上人口の割合が30%を超える地域が集中し愛知県の中で高齢化が進行している地域である（図1-1）。平成27年国勢調査「人口等基本集計結果」によると平成27年現在、東三河地域の人口は、76,6万人であり、平成52年には、約11万人が減少するとされている（表1-2, 図1-2）。高齢化・過疎化は、防災力の低下、自主防災組織活動の低下が推測され、「共助」の要となる自主防災活動の維持継続が懸念され、地域防災体制の整備が急がれる。

表1-1 各自治体の自主防災会の組織率(平成28年東三河地域防災協議会への回答のまとめ)

自治体名	団体数	組織数	全体数	組織率	備考
豊橋市	420	420	419	100%	複数で一つの防災会を結成・1つの町に2つあり
豊川市	192	192	192	100%	
蒲郡市	51	51	51	100%	
新城市	132	132	132	100%	
田原市	106	103	106	100%	自治会106、自主防災会103、2自治会で1、3防災会を構成
設楽町	32	31	31	100%	
東栄町	6	16	15	100%	1つの行政区に複数の自主防災会があり、分子が大きくなる
豊根村	5	5	5	100%	

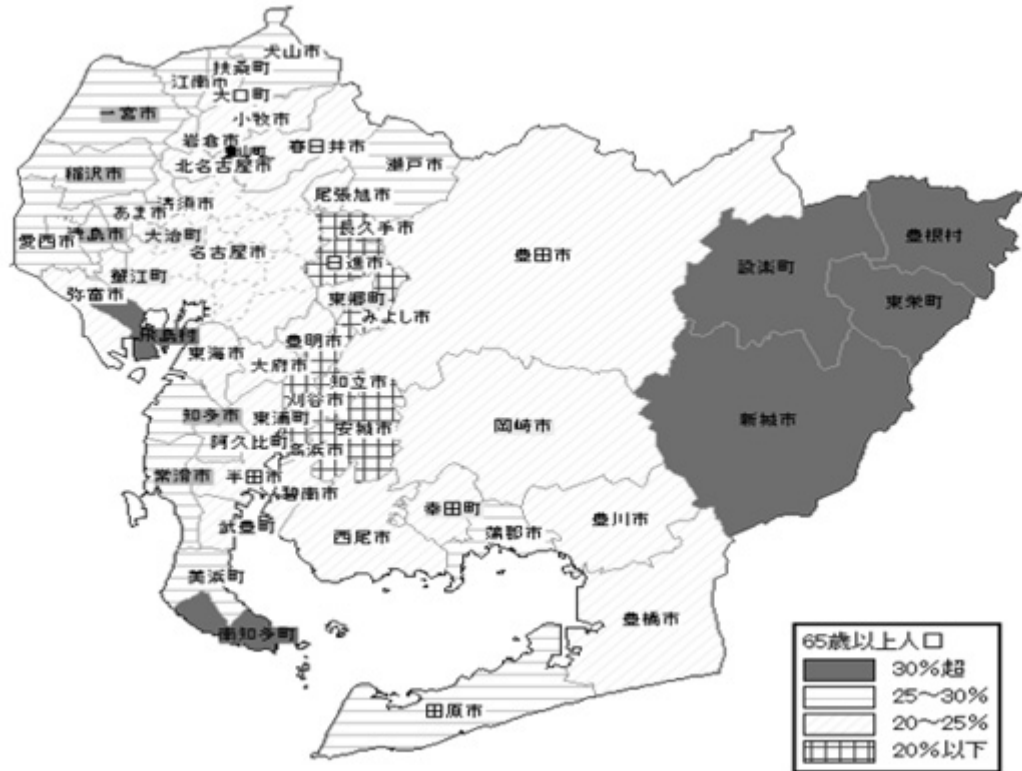


図 1-1 65 歳以上人口の割合 愛知県：あいちの人口 平成 27 年国勢調査より

表 1-2 東三河地域の人口・面積

市町村名	人口(人)	面積(km ²)
豊橋市	376,665	261.35
豊川市	181,928	160.79
蒲郡市	82,249	56.81
新城市	49,864	499
田原市	64,119	118.81
設楽町	5,769	273.96
東栄町	3,757	123.4
豊根村	1,336	155.91
計	765,687	1720.03

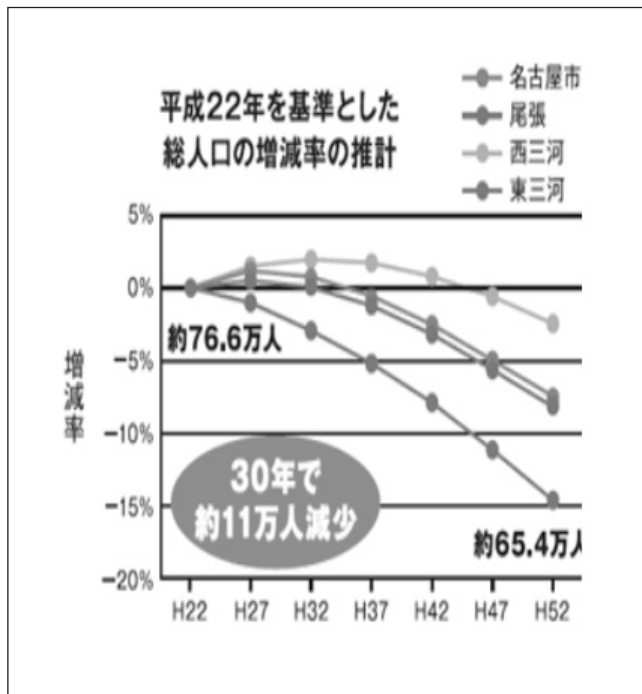


図 1-2 平成 22 年を基準とした総人口の増減率の推計

愛知県：あいちの人口 平成 27 年国勢調査より

1-2. 本研究の目的

東三河地域は、人口の過疎化、高齢化、市町村合併による広域化による地域の特性に伴う課題など抱えている。また、地形的には山間地域が広がる新城市、東栄町、設楽町、豊根村、その下流域にあり海拔の低い地域がある豊川市、豊橋市、蒲郡市、太平洋沿岸や内海地域をもつ田原市は、地域の環境によって想定される被害も異なる。そこで、本研究の目的は、各地域の自主防災組織の運営、活動内容について調査を行い自主防災会の現況を明らかにする。自主防災組織活動が活性化するための要因を探り、活性化に向けた方法を提案する。

1-3. 本研究の構成

本報告書は以下によって構成する。

①研究の概要（1章）

東三河の自主防災会の実態調査の必要性などの背景と本研究報告の目的を整理する。

②地域を取り巻く環境-人口から見た地域環境-（2章）

地域の防災活動を考える上で、東三河地域の5市3町村の昼夜間人口の差、転入・転出数及び年齢別(3区分)人口からみた地域防災の課題を整理する。

③24地区の自主防災会の現状と評価（3章、4章）

24地区の自主防災会の活動の実態調査を実施し、自主防災会の現況を明らかにした。自主防災会活動を「総合活性度」で評価し、質的に活動の促進要因や阻害する要因を探った。さらに活発な地域とそうでない地域へアンケート調査を行い具体的な要因を探った。

④災害意識の向上を目指す災害イメージトレーニングの実践方法と効果（5章）

実態調査の結果から、住民ひとり一人の災害意識の向上を図る方法の一つとして「災害イメージトレーニング」を実践した方法と効果を整理する。また、「災害イメージトレーニング」のワークシートの作成に至ったプロセスを記す。

⑤総括（6章）

総合的なまとめと課題と提言をする。

第2章 地域を取り巻く環境 -人口から見た地域環境-

第2章 地域を取り巻く環境 -人口から見た地域環境-

地域の防災活動を考える上で、平成27年国勢調査及び平成28年度刊愛知県統計年鑑 - 愛知県より東三河地域の5市3町村の昼夜間人口の差、転入・転出数及び年齢別(3区分)人口からみた地域防災の課題を整理する。

2-1. 東三河の5市3町村の昼夜間の人口からみた地域の現況

実状に応じた防災対策を考える上で、三河地域の5市3町村の昼間と夜間の人口の差を把握していく必要がある。

図2-1から図2-8に示すように、夜間の人口が多い地域は、豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市であり、昼間は他の地域で就労している。設楽町、東栄町、豊根村は、ほぼ人口は、昼夜間同じであった。田原市は、昼間の人口が増加していた。

以上から、昼間と夜間の人口の格差のある地域は、発災時間によって具体的な対策(対応計画)が必要である。

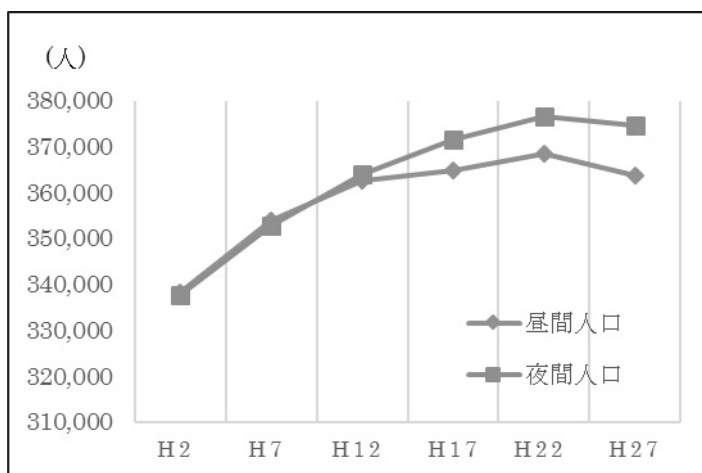


図2-1 豊橋市における人口の昼夜間の差

単位:人

	昼間人口	夜間人口	差
H2	338,443	337,705	738
H7	354,060	352,840	1,220
H12	362,791	364,147	-1,356
H17	364,999	371,534	-6,535
H22	368,658	376,665	-8,007
H27	363,899	374,765	-10,866

H27 国勢調査 時系列データ 従業地・通学地より作成

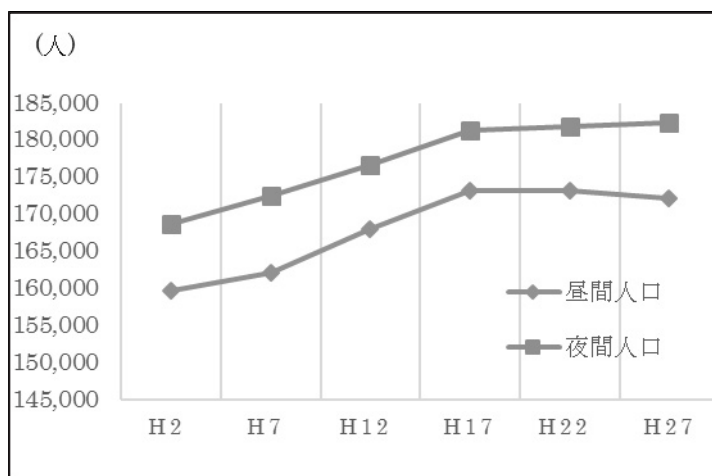
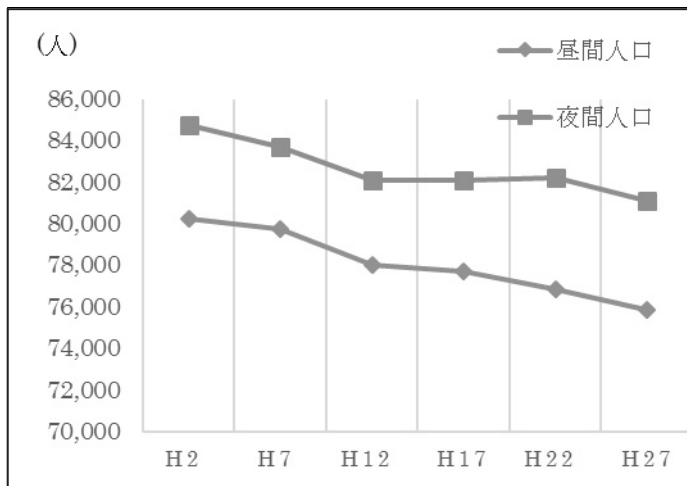


図2-2 豊川市における人口の昼夜間の差

単位:人

	昼間人口	夜間人口	差
H2	159,619	168,703	-9,084
H7	162,039	172,496	-10,457
H12	167,923	176,683	-8,760
H17	173,226	181,402	-8,176
H22	173,200	181,928	-8,728
H27	172,150	182,436	-10,286

H27 国勢調査 時系列データ 従業地・通学地より作成

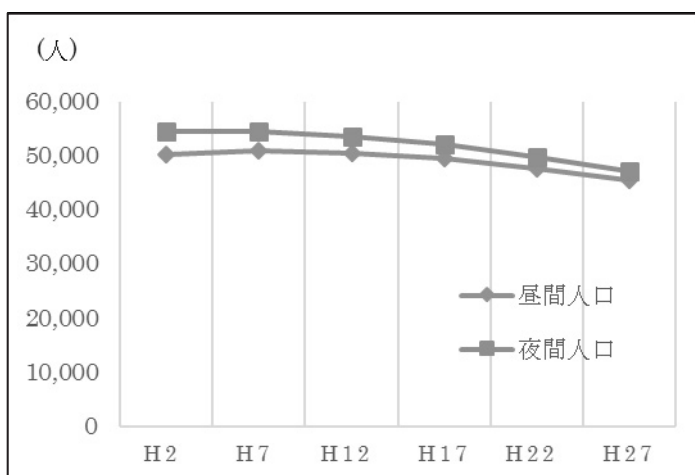


単位:人

	昼間人口	夜間人口	差
H2	80,262	84,766	-4,504
H7	79,779	83,730	-3,951
H12	78,052	82,079	-4,027
H17	77,714	82,100	-4,386
H22	76,859	82,249	-5,390
H27	75,855	81,100	-5,245

図 2-3 蒲州市における人口の昼夜間の差

H27 国勢調査 時系列データ 従業地・通学地より作成

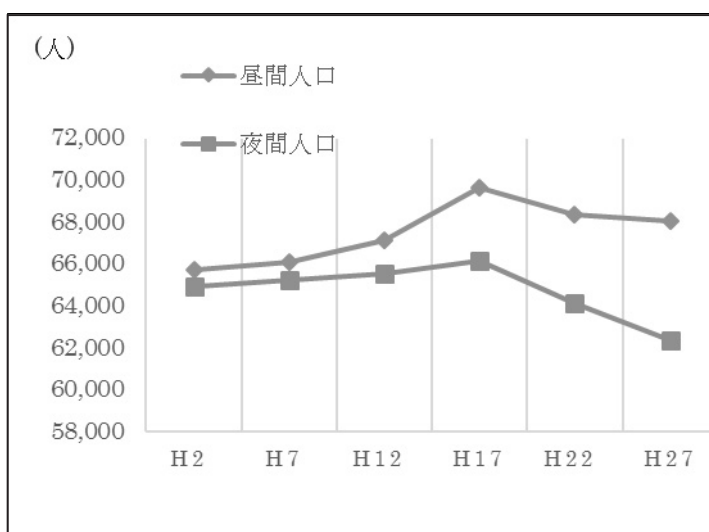


単位:人

	昼間人口	夜間人口	差
H2	50,212	54,578	-4,366
H7	51,095	54,602	-3,507
H12	50,466	53,603	-3,137
H17	49,588	52,126	-2,538
H22	47,617	49,864	-2,247
H27	45,491	47,133	-1,642

図 2-4 新城市における人口の昼夜間の差

H27 国勢調査 時系列データ 従業地・通学地より作成



単位:人

	昼間人口	夜間人口	差
H2	65,715	64,960	755
H7	66,079	65,243	836
H12	67,151	65,530	1621
H17	69,623	66,146	3477
H22	68,343	64,119	4224
H27	68,074	62,364	5710

図 2-5 田原市における人口の昼夜間の差

H27 国勢調査 時系列データ 従業地・通学地より作成

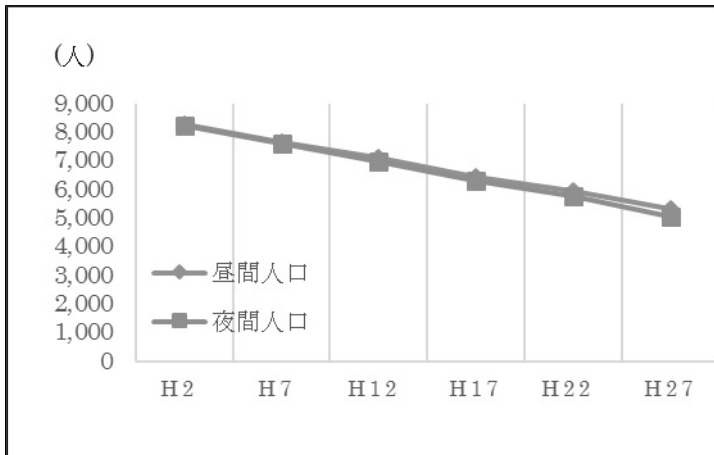


図 2-6 設楽町における人口の昼夜間の差

	昼間人口	夜間人口	差
H2	8,298	8,225	73
H7	7,655	7,599	56
H12	7,107	6,959	148
H17	6,449	6,306	143
H22	5,969	5,769	200
H27	5,335	5,074	261

H27 国勢調査 時系列データ 従業地・通学地より作成

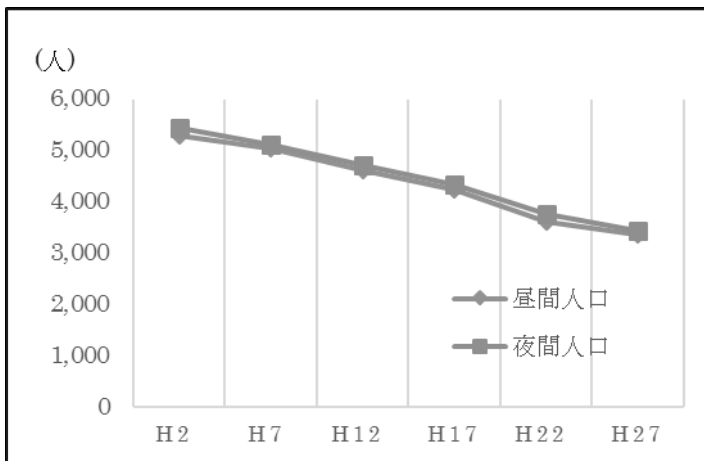


図 2-7 東栄町における人口の昼夜間の差

	昼間人口	夜間人口	差
H2	5,287	5,441	-154
H7	5,028	5,124	-96
H12	4,616	4,717	-101
H17	4,247	4,347	-100
H22	3,604	3,757	-153
H27	3,350	3,446	-96

H27 国勢調査 時系列データ 従業地・通学地より作成

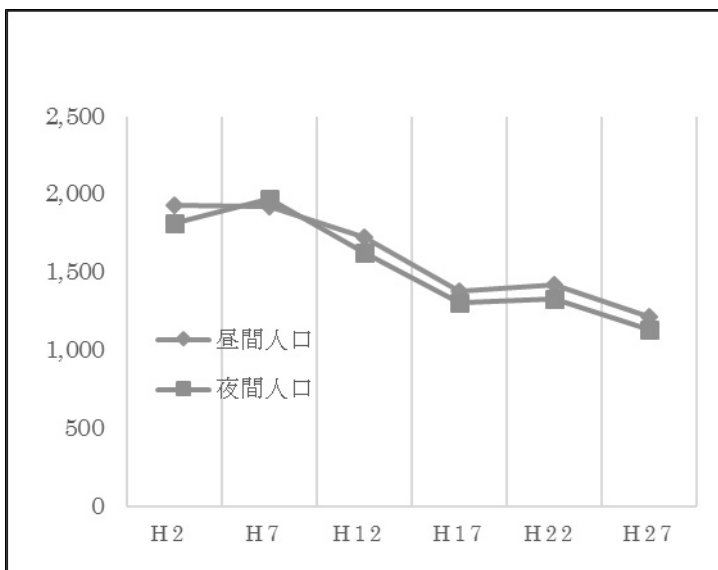


図 2-8 豊根村における人口の昼夜間の差

	昼間人口	夜間人口	差
H2	1,932	1,813	119
H7	1,926	1,974	-48
H12	1,728	1,629	99
H17	1,380	1,309	71
H22	1,422	1,336	86
H27	1,216	1,135	81

H27 国勢調査 時系列データ 従業地・通学地より作成

2-2. 東三河の5市3町村の転出・転入からみた地域の現況

東三河の5市3町村の転出・転入は、図2-9から図2-16に示す。

転入より転出を上回っているのは、田原市で平成26年から転出数が急に増加している。また、山間地域は、転出傾向が続いており、設楽町、豊根村は、平成27年に転出数が増加している。

山間地域は、転入者が少なく、高齢者人口が増加するとともに、若年人口が減少し、高齢者層が他の年齢層に比べ大きな割合を占める社会へと移行しつつある。

また、少子高齢化、過疎化は、災害時要援護者の増加を示し、「自助力」と「共助力」の低下につながる。特に、山間地域の少子高齢化を踏まえた安全・安心を確保対策が急がれる。

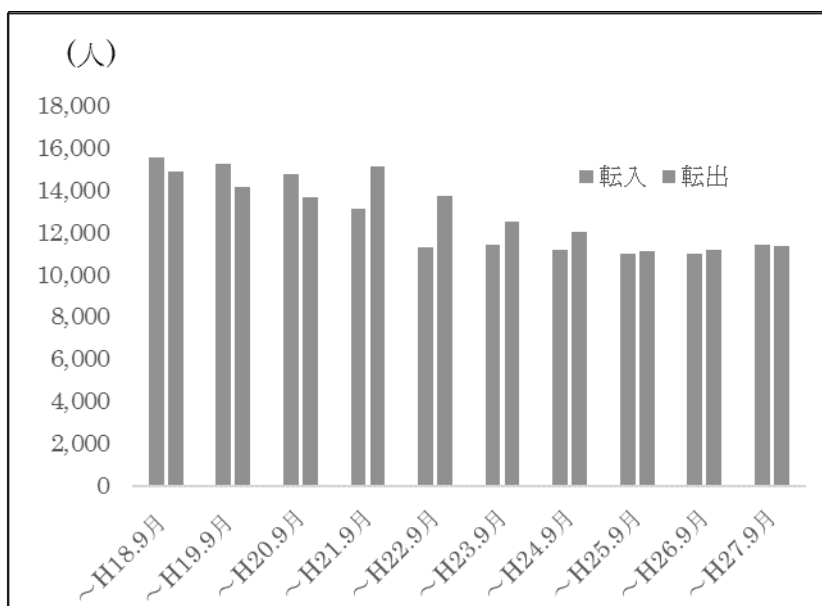


図2-9 豊橋市の転入・転出数

期間	転入	転出	差
~H18.9月	15,565	14,912	653
~H19.9月	15,291	14,206	1,085
~H20.9月	14,791	13,712	1,079
~H21.9月	13,128	15,188	-2,060
~H22.9月	11,337	13,771	-2,434
~H23.9月	11,456	12,556	-1,100
~H24.9月	11,179	12,065	-886
~H25.9月	11,015	11,127	-112
~H26.9月	11,008	11,191	-183
~H27.9月	11,431	11,409	22

愛知県統計年鑑 8-2 表

市町村年内外別移動者数より作成

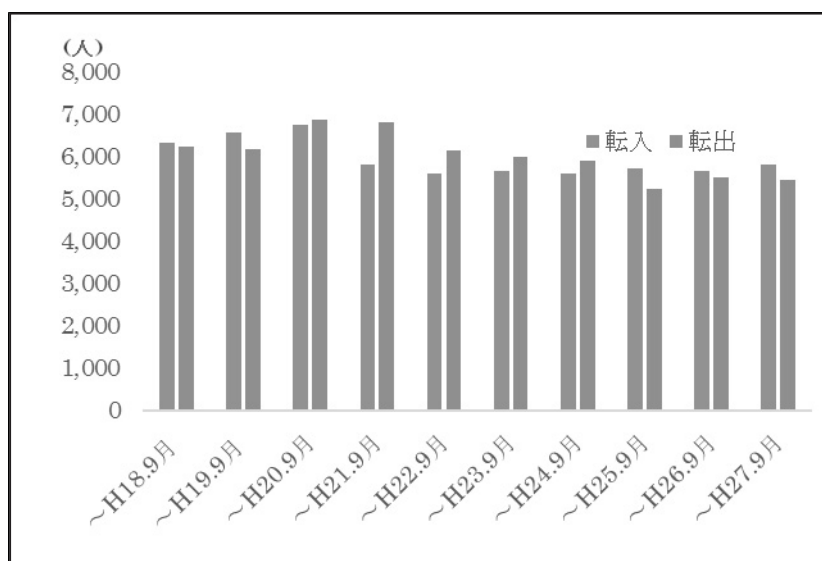


図2-10 豊川市の転入・転出数

期間	転入	転出	差
~H18.9月	6,342	6,229	113
~H19.9月	6,564	6,177	387
~H20.9月	6,754	6,871	-117
~H21.9月	5,811	6,821	-1,010
~H22.9月	5,609	6,154	-545
~H23.9月	5,665	6,000	-335
~H24.9月	5,603	5,923	-320
~H25.9月	5,737	5,233	504
~H26.9月	5,654	5,522	132
~H27.9月	5,815	5,441	374

愛知県統計年鑑 8-2 表

市町村年内外別移動者数より作成

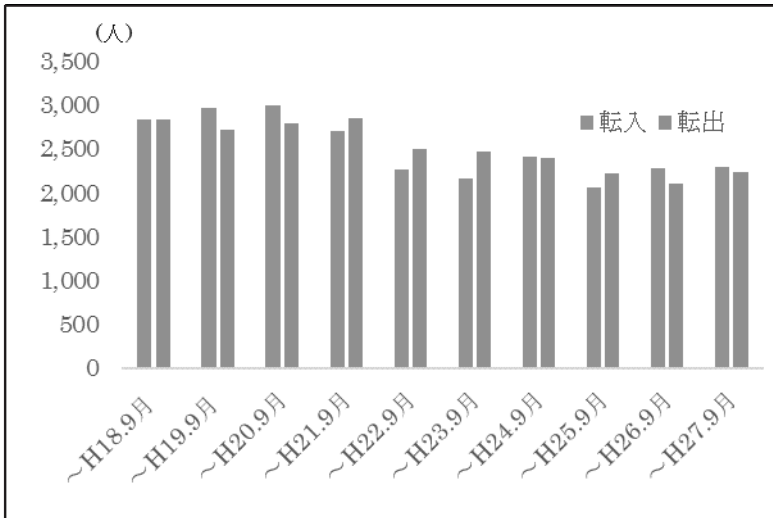


図 2-11 蒲郡市の転入・転出数

	転入	転出	差
~H18.9月	2,842	2,839	3
~H19.9月	2,973	2,727	246
~H20.9月	3,009	2,808	201
~H21.9月	2,718	2,859	-141
~H22.9月	2,276	2,513	-237
~H23.9月	2,172	2,473	-301
~H24.9月	2,419	2,402	17
~H25.9月	2,075	2,227	-152
~H26.9月	2,296	2,116	180
~H27.9月	2,307	2,247	60

愛知県統計年鑑 8-2 表

市町村年内外別移動者数より作成

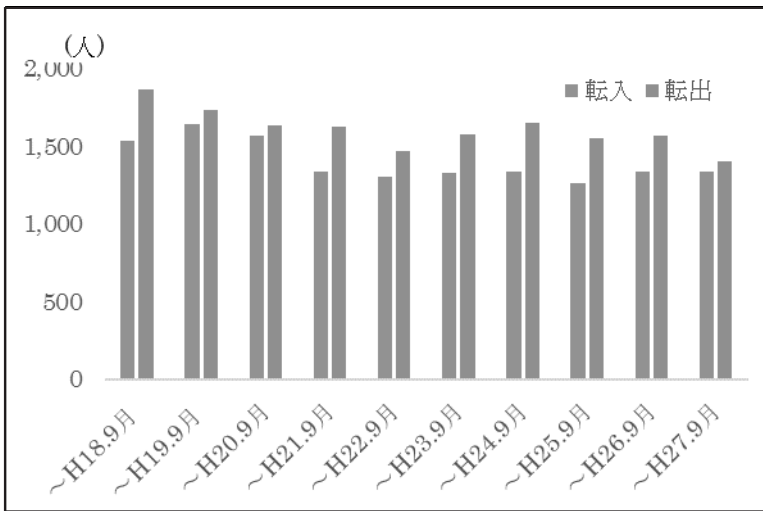


図 2-12 新城市の転入・転出数

	転入	転出	差
~H18.9月	1,542	1,867	-325
~H19.9月	1,647	1,738	-91
~H20.9月	1,577	1,642	-65
~H21.9月	1,338	1,634	-296
~H22.9月	1,309	1,477	-168
~H23.9月	1,329	1,580	-251
~H24.9月	1,342	1,656	-314
~H25.9月	1,269	1,553	-284
~H26.9月	1,341	1,576	-235
~H27.9月	1,340	1,407	-67

愛知県統計年鑑 8-2 表

市町村年内外別移動者数より作成

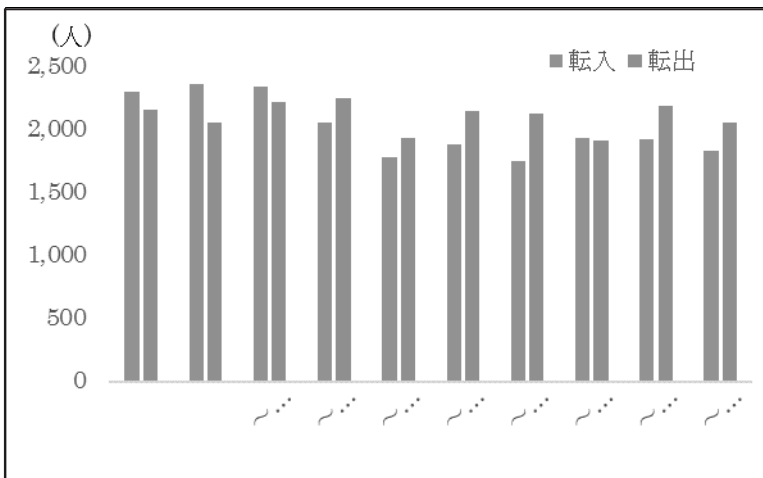
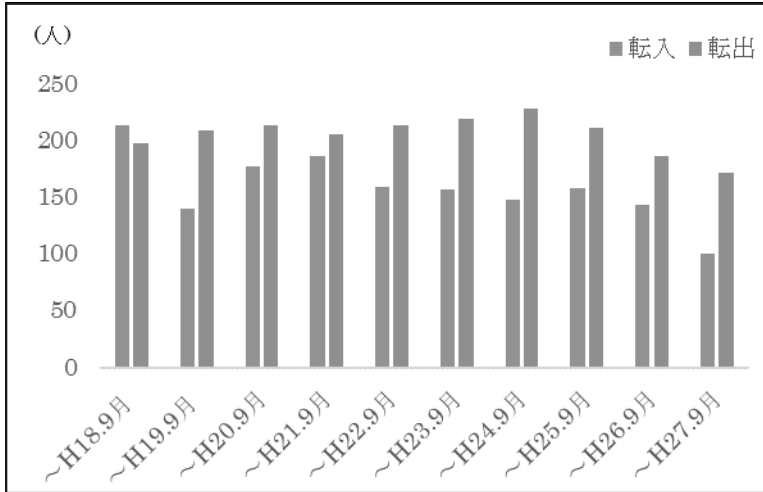


図 2-13 田原市の転入・転出数

	転入	転出	差
~H18.9月	2,294	2,156	138
~H19.9月	2,359	2,058	301
~H20.9月	2,336	2,219	117
~H21.9月	2,056	2,246	-190
~H22.9月	1,778	1,927	-149
~H23.9月	1,885	2,142	-257
~H24.9月	1,749	2,125	-376
~H25.9月	1,929	1,913	16
~H26.9月	1,917	2,182	-265
~H27.9月	1,833	2,053	-220

愛知県統計年鑑 8-2 表

市町村年内外別移動者数より作成

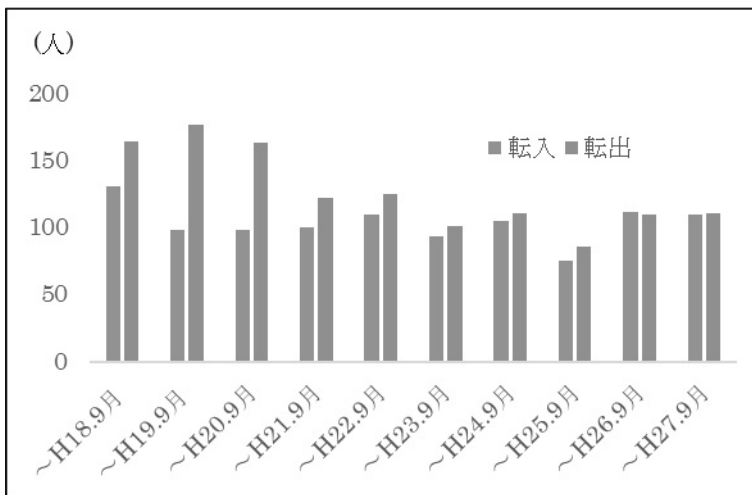


	転入	転出	差
～H18.9月	214	198	16
～H19.9月	140	209	-69
～H20.9月	178	214	-36
～H21.9月	187	206	-19
～H22.9月	159	214	-55
～H23.9月	157	219	-62
～H24.9月	148	228	-80
～H25.9月	158	212	-54
～H26.9月	143	187	-44
～H27.9月	101	172	-71

図 2-14 設楽町の転入・転出数

愛知県統計年鑑 8-2 表

市町村年内外別移動者数より作成

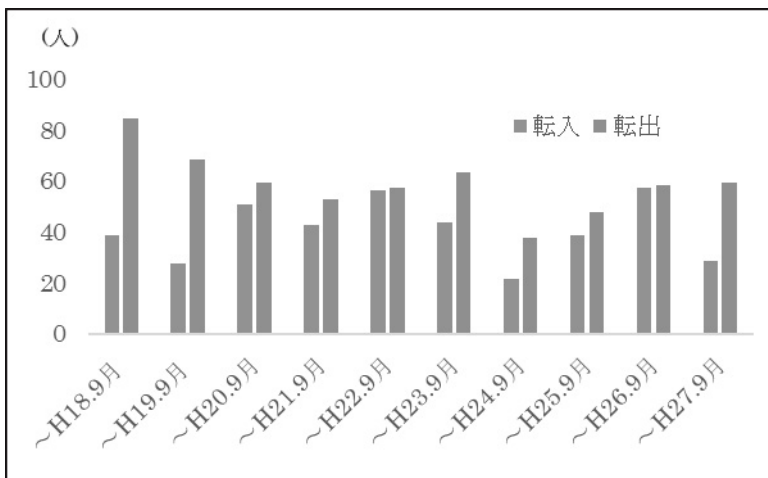


	転入	転出	差
～H18.9月	131	165	-34
～H19.9月	98	177	-79
～H20.9月	98	164	-66
～H21.9月	100	122	-22
～H22.9月	110	125	-15
～H23.9月	94	101	-7
～H24.9月	105	111	-6
～H25.9月	75	86	-11
～H26.9月	112	110	2
～H27.9月	110	111	-1

図 2-15 東栄町の転入・転出数

愛知県統計年鑑 8-2 表

市町村年内外別移動者数より作成



	転入	転出	差
～H18.9月	39	85	-46
～H19.9月	28	69	-41
～H20.9月	51	60	-9
～H21.9月	43	53	-10
～H22.9月	57	58	-1
～H23.9月	44	64	-20
～H24.9月	22	38	-16
～H25.9月	39	48	-9
～H26.9月	58	59	-1
～H27.9月	29	60	-31

図 2-16 豊根村の転入・転出数

愛知県統計年鑑 8-2 表

市町村年内外別移動者数より作成

2-3. 東三河の5市3町村の年齢別(3区分)人口の推移からの地域の現況

表1から表8に示すように、平成22年では5市3町村のうち、65歳以上の高齢者が占める割合が40%以上の地域は東栄町、設楽町、豊根村の山間地域であった。75歳以上が総人口に占める割合が約3割を示していたのは、東栄町と豊根村であった。

豊根村・東栄町は、高齢化・過疎化が進んでおり、組織としての機能が難しくなることが推測される。少子高齢化にともなって生産年齢人口比率が低下し、地域の防災力が低下することが懸念される。

表2-1 豊橋市の年齢別(3区分)人口の推移

年齢別(3区分)人口の推移					(再掲)	
	総数	15歳未満	15~64歳	65歳以上	高齢化率	75歳以上
S55	304,273	75,796	201,942	26,518	8.7%	—
S60	322,142	73,928	216,872	31,336	9.7%	12,249
H2	337,982	65,613	234,962	37,130	11.0%	15,373
H7	352,982	60,890	246,016	45,934	13.0%	18,438
H12	364,856	59,085	249,901	55,161	15.1%	22,574
H17	372,479	57,459	248,770	65,305	17.6%	28,817
H22	376,665	55,709	241,743	75,780	20.3%	34,696
H27	376,716	52,498	233,476	90,742	24.1%	41,297
H32	373,406	48,753	227,192	97,461	26.1%	48,741
H37	367,199	44,957	221,859	100,383	27.3%	58,631
H42	358,949	41,472	214,468	103,009	28.7%	61,707
H47	349,020	39,426	203,644	105,950	30.4%	61,772
H52	337,646	38,025	187,958	111,663	33.1%	62,175

国勢調査 ※総人口は年齢「不詳」を含む。
『日本の市区町村別将来推計人口』(平成25年3月推計) 国立社会保障・人口問題研究所

表2-2 豊川市の年齢別(3区分)人口の推移

年齢別(3区分)人口の推移					(再掲)	
	総数	15歳未満	15~64歳	65歳以上	高齢化率	75歳以上
S55	157,084	40,989	103,524	12,514	8.0%	—
S60	162,922	38,319	109,256	15,347	9.4%	5,609
H2	168,796	32,539	117,795	18,369	10.9%	7,449
H7	172,509	29,483	120,491	22,522	13.1%	9,050
H12	176,698	28,072	121,520	27,091	15.3%	11,206
H17	181,444	27,748	121,063	32,591	18.0%	14,516
H22	181,928	27,294	115,543	38,215	21.1%	17,141
H27	180,741	26,035	109,377	45,329	25.1%	20,437
H32	178,343	24,267	105,939	48,137	27.0%	24,412
H37	174,615	22,314	103,397	48,904	28.0%	29,267
H42	169,936	20,594	100,021	49,321	29.0%	30,308
H47	164,586	19,595	94,895	50,096	30.4%	29,721
H52	158,772	18,959	87,142	52,671	33.2%	29,337

国勢調査 ※総人口は年齢「不詳」を含む。
『日本の市区町村別将来推計人口』(平成25年3月推計) 国立社会保障・人口問題研究所

表2-3 蒲郡市の年齢別(3区分)人口の推移

年齢別(3区分)人口の推移					(再掲)	
	総数	15歳未満	15~64歳	65歳以上	高齢化率	75歳以上
S55	85,294	20,513	57,191	7,583	8.9%	—
S60	85,580	18,141	58,716	8,721	10.2%	3,271
H2	84,819	15,050	59,409	10,307	12.2%	4,208
H7	83,730	13,552	57,760	12,418	14.8%	4,853
H12	82,108	12,396	54,534	15,149	18.5%	5,959
H17	82,108	11,420	53,172	17,508	21.3%	7,516
H22	82,249	11,015	50,781	20,135	24.6%	9,530
H27	80,928	10,059	48,177	22,692	28.0%	11,124
H32	78,872	9,215	46,489	23,168	29.4%	12,618
H37	76,267	8,334	44,966	22,967	30.1%	14,129
H42	73,329	7,625	42,760	22,944	31.3%	13,966
H47	70,212	7,211	40,181	22,820	32.5%	13,446
H52	66,959	6,862	36,892	23,205	34.7%	13,322

国勢調査 ※総人口は年齢「不詳」を含む。
『日本の市区町村別将来推計人口』(平成25年3月推計) 国立社会保障・人口問題研究所

表 2-4 新城市の年齢別(3 区分)人口の推移

年齢別(3区分)人口の推移						(再掲)	
	総数	15歳未満	15～64歳	65歳以上	高齢化率	75歳以上	
S55	54,239	11,846	35,195	7,198	13.3%	-	-
S60	54,965	11,785	35,119	8,061	14.7%	3,251	5.9%
H2	54,583	10,415	34,835	9,328	17.1%	3,882	7.1%
H7	54,602	9,129	34,546	10,927	20.0%	4,557	8.3%
H12	53,603	7,946	33,320	12,337	23.0%	5,522	10.3%
H17	52,178	7,091	31,769	13,266	25.4%	6,817	13.1%
H22	49,864	6,300	29,531	14,033	28.1%	7,708	15.5%
H27	47,443	5,438	26,641	15,364	32.4%	8,073	17.0%
H32	44,994	4,658	24,293	16,043	35.7%	8,438	18.8%
H37	42,416	4,090	22,336	15,990	37.7%	9,451	22.3%
H42	39,793	3,655	20,599	15,539	39.0%	9,927	24.9%
H47	37,142	3,349	19,013	14,780	39.8%	9,773	26.3%
H52	34,415	3,093	17,145	14,177	41.2%	9,250	26.9%

国勢調査

※総人口は年齢「不詳」を含む。

『日本の市区町村別将来推計人口』(平成25年3月推計) 国立社会保障・人口問題研究所

表 2-5 田原市の年齢別(3 区分)人口の推移

年齢別(3区分)人口の推移						(再掲)	
	総数	15歳未満	15～64歳	65歳以上	高齢化率	75歳以上	
S55	60,581	14,200	39,045	7,336	12.1%	-	-
S60	63,769	14,340	41,107	8,322	13.1%	3,379	5.3%
H2	64,978	13,264	42,299	9,397	14.5%	4,147	6.4%
H7	65,243	12,261	41,927	11,055	16.9%	4,747	7.3%
H12	65,534	10,893	42,235	12,402	18.9%	5,484	8.4%
H17	66,390	9,550	43,386	13,210	20.0%	6,729	10.1%
H22	64,119	8,788	41,005	14,224	22.2%	7,679	12.0%
H27	62,200	8,090	38,177	15,933	25.6%	7,989	12.8%
H32	60,243	7,412	35,906	16,925	28.1%	8,507	14.1%
H37	58,110	6,799	33,902	17,409	30.0%	9,765	16.8%
H42	55,907	6,314	31,902	17,691	31.6%	10,492	18.8%
H47	53,549	6,026	29,775	17,748	33.1%	10,734	20.0%
H52	50,886	5,715	27,284	17,887	35.2%	10,687	21.0%

国勢調査

※総人口は年齢「不詳」を含む。

『日本の市区町村別将来推計人口』(平成25年3月推計) 国立社会保障・人口問題研究所

表 2-6 設楽町の年齢別(3 区分)人口の推移

年齢別(3区分)人口の推移						(再掲)	
	総数	15歳未満	15～64歳	65歳以上	高齢化率	75歳以上	
S55	9,321	1,632	5,924	1,765	18.9%	-	-
S60	8,724	1,436	5,350	1,938	22.2%	803	9.2%
H2	8,225	1,243	4,843	2,139	26.0%	949	11.5%
H7	7,599	1,009	4,161	2,429	32.0%	1,048	13.8%
H12	6,959	788	3,618	2,553	36.7%	1,169	16.8%
H17	6,306	645	3,078	2,583	41.0%	1,428	22.6%
H22	5,769	513	2,749	2,507	43.5%	1,544	26.8%
H27	5,185	408	2,339	2,438	47.0%	1,520	29.3%
H32	4,623	325	1,984	2,314	50.1%	1,406	30.4%
H37	4,104	268	1,690	2,146	52.3%	1,360	33.1%
H42	3,645	226	1,471	1,948	53.4%	1,311	36.0%
H47	3,235	201	1,275	1,759	54.4%	1,231	38.1%
H52	2,867	182	1,087	1,598	55.7%	1,114	38.9%

国勢調査

※総人口は年齢「不詳」を含む。

『日本の市区町村別将来推計人口』(平成25年3月推計) 国立社会保障・人口問題研究所

表 2-7 東栄町の年齢別(3区分)人口の推移

年齢別(3区分)人口の推移						(再掲)	
	総数	15歳未満	15~64歳	65歳以上	高齢化率	75歳以上	
S55	6,236	1,027	4,063	1,146	18.4%	-	-
S60	5,898	906	3,711	1,281	21.7%	540	9.2%
H2	5,441	745	3,273	1,423	26.2%	557	10.2%
H7	5,124	612	2,773	1,739	33.9%	731	14.3%
H12	4,717	502	2,313	1,902	40.3%	898	19.0%
H17	4,347	376	2,028	1,943	44.7%	1,112	25.6%
H22	3,757	301	1,660	1,795	47.8%	1,153	30.7%
H27	3,309	241	1,330	1,738	52.5%	1,115	33.7%
H32	2,901	198	1,095	1,608	55.4%	999	34.4%
H37	2,531	164	911	1,456	57.5%	978	38.6%
H42	2,203	139	773	1,291	58.6%	914	41.5%
H47	1,919	122	669	1,128	58.8%	835	43.5%
H52	1,665	109	564	992	59.6%	736	44.2%

国勢調査

※総人口は年齢「不詳」を含む。

『日本の市区町村別将来推計人口』(平成25年3月推計) 国立社会保障・人口問題研究所

表 2-8 豊根村の年齢別(3区分)人口の推移

年齢別(3区分)人口の推移						(再掲)	
	総数	15歳未満	15~64歳	65歳以上	高齢化率	75歳以上	
S55	2,126	363	1,385	378	17.8%	-	-
S60	1,933	320	1,224	389	20.1%	149	7.7%
H2	1,813	266	1,086	461	25.4%	170	9.4%
H7	1,722	235	929	558	32.4%	214	12.4%
H12	1,629	189	766	674	41.4%	268	16.5%
H17	1,517	164	674	679	44.8%	341	22.5%
H22	1,336	130	594	612	45.8%	423	31.7%
H27	1,207	109	503	595	49.3%	392	32.5%
H32	1,070	73	428	569	53.2%	349	32.6%
H37	953	67	363	523	54.9%	336	35.3%
H42	849	58	330	461	54.3%	333	39.2%
H47	771	53	310	408	52.9%	317	41.1%
H52	688	50	268	370	53.8%	272	39.5%

国勢調査

※総人口は年齢「不詳」を含む。

『日本の市区町村別将来推計人口』(平成25年3月推計) 国立社会保障・人口問題研究所

2-4. 東三河の5市3町村の人口からみた地域防災の課題

人口の格差が大きな地域は、発災時間によって具体的な対策が必要である。

東三河の5市3町村は、転出が転入を上回っている状況が続いており、年齢3区分の人口の推移からみると、東栄町、設楽町、豊根村は、平成32年には、65歳以上が50%を超え限界集落となることが推測されている。

平成28年版 防災白書の「特集 第1章 少子高齢化時代における防災」によると、少子高齢化で生活や地域は、担い手層の減少により、祭りや地区行事の維持が困難になる、地域を守る消防団員の減少、高齢化により地域の防災力の低下、子供を中心とした運動会や育成会行事に活気がなくなる、地域の歴史や伝統芸能などの地域文化の伝承が薄れていく、町内会費の減少により、地区活動が制限され、地区財産の維持も困難になる、空き家の増加・荒廃による、地域の景観の悪化、住民の焦燥感等から、無力感、個人・世帯の自助力・生活力の低下、個人・世帯の自助力・生活力の低下が起こり得ると懸念されており、新しい今後の自主防災会活動が必要といえる。

今後の、自主防災会組織と活動のあり方を行政と連携しながら、地域の防災活動が維持継続できるように自主防災会の利点を生かすことのできる地域の実状に応じた「地域防災事業計画」が必要であろう。

第3章 24 地区の自主防災会の現状と評価

－実態調査からみた自主防災会の課題－

第3章 24地区の自主防災会の現状と評価 —実態調査からみた自主防災会の課題—

本章では、東三河5市3町村のモデル地区の自主防災活動の現状と課題を明らかにする。アンケート調査結果から実質化と継続性の視点から自主防災活動に共通する課題の要因を探る。

3-1. 調査対象及び選定

5市3町村の対象地区の選択条件を以下の2つとして、東三河地域防災協議会の各自治体から3地区ずつ選択してもらい、24地区の自主防災組織を調査対象とした(表3-1)。また、24地区の自主防災組織の町名・世帯数・地域について、明記してもらった(表3-2)。

選択要件を、以下の通りとした。

- ①特性に応じた選定しやすい地区の自主防災組織であること
- ②可能な限り地域特性が異なる組織であることを満たす地区であること

表3-1 アンケート調査対象地区

豊橋市	吉川町防災会	豊川市	古宿2区自主防災会
	弥生松原防災会		国府下町自主防災会
	多米東町二丁目防災会		伊奈自主防災会
蒲郡市	相楽町自主防災会	田原市	浦区自主防災会
	東区自主防災会		赤石自主防災会
	拾石町自主防災会		堀切自主防災会
新城市	入船自主防災会	設楽町	栄町区自主防災会
	下吉田自主防災会		大平区自主防災会
	秋葉巢山自主防災会		津具3区自主防災会
東栄町	本郷自主防災会	豊根村	下黒川区自主防災会
	御園自主防災会		坂宇場区自主防災会
	古戸自主防災会		富山区自主防災会

3-2. 24地区の自主防災会の実態調査—アンケート調査方法

平成28年8月17日～9月9日に、5市3町村の各自治体から3地区選定した自主防災会代表者の24名に対して、自主防災活動に関するアンケート調査を実施した。

配布は、各自治体の東三河地域防災協会を經由して各選出した自主防災会に郵送した。回答者は、無記名で投函し、投函により承諾を得たものとした。紙面にて説明し、郵送にて回収した。

アンケート回収状況は、24名(100.0%)であった。

調査項目は、回答者の属性〔立場、性別、年代、就任年数、任期〕、自主防災活動組織構成〔組織構成人数、男女比、組織員の年代〕、自主防災組織〔自治会〕が取り組んでいる防災活動と頻度、自主防災組織が「取り組んでいる、または意識しているもの防災活動」〔12項目〕自主防災組織の課題、工夫していることなど自由記述〔13項目〕、地域防災活動の強みと弱み〔自由記述〕、自由意見であった。

3-3. アンケートの回答者属性

アンケート回答者の属性、性別、立場、就任年数、任期年数、役員の年代の特徴を整理する。

※データは、平成 28 年度の調査の結果である。

①回答者の属性

- ・回答者の性別は、24 名中 24 名（100%）が男性であった。
- ・回答者の立場は、区長・自治会長が 13 名（54.2%）と最も多い。防災会の代表者は半数以上が、区長や自治会長を兼任していた（表 3-2. 図 3-1）。

②就任年数

- ・回答者の就任年数は、1 年目が最も多く 9 名（37.5%）、次いで 2 年目が 7 名（29.2%）であった。3 年目以降は、7 名（29%）であった（表 3 - 3. 図 3-2）。

③任期

- ・役員の任期年数は、2 年間で 12 地区（50.0%）が最も多い。次いで 1 年間で 8 地区（33.3%）で、8 割以上が 2 年以内の任期となっていた（表 3-4）。
- ・役員の年代は、60 代が 17 名（70.8%）で最も多い。70 代が 4 名（16.7%）、50 代が 3 名（13%）である。若い人は、少なく 60 代が多かった。

表 3-2 回答者の立場

N=24

立場	区長・自治会長	自主防災会長	その他	記載なし	合計
人数	13(54.2%)	8 (33.3%)	2(8.3%)	1(4.2%)	24(100.0%)

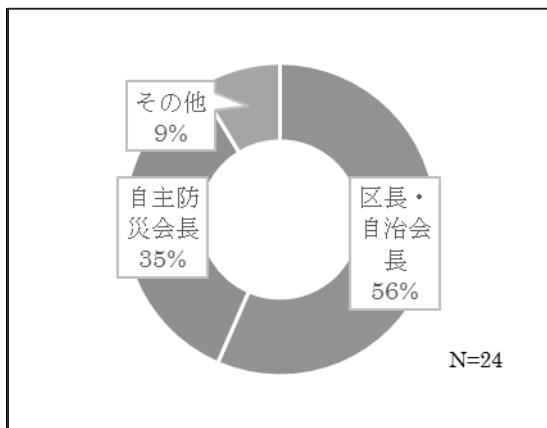


図 3-1 回答者の立場

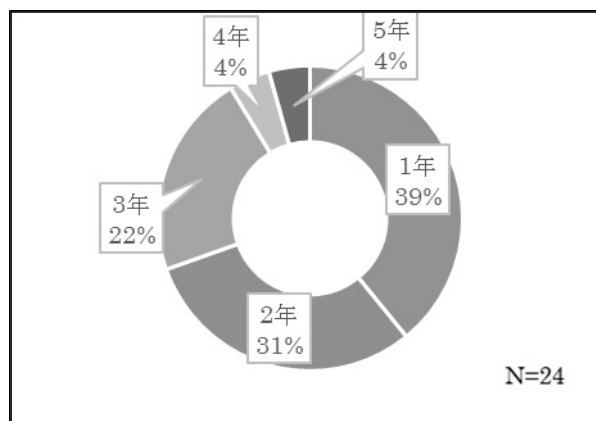


図 3-2 回答者の就任年数

表 3-3 就任年数

就任年数	1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	記載なし	合計
地区数	9(37.5%)	7(29.2%)	5(20.8%)	1(4.2%)	1(4.2%)	1(4.2%)	24(100.0%)

表 3-4 役員の任期年数

任期年数	1 年間	2 年間	3 年間	なし	記載なし	合計
地区数	8(33.3%)	12(50.0%)	1(4.2%)	1(4.2%)	2(8.3%)	24(100.0%)

3-4. 自主防災会の組織の現況

① 各自治体の世帯・組織構成員が担当する世帯数

- ・世帯数は、秋葉巢山(新城市)27世帯から弥生松原(豊橋市)2159世帯であった。構成人数は、4人から116人であり、世帯数に対して、組織構成員1人が抱える世帯数が100世帯以上と推測される自主防災会は、古宿2区(豊川市)、吉川町(豊橋市)、弥生松原(豊橋市)、多米二丁目(豊橋市)、赤石(田原市)であった(表3-5)。
- ・世帯数は、秋葉巢山(新城市)の27世帯が最も少なく、最も世帯数が多いのは弥生松原(豊橋市)2159世帯であった(表3-5)。
- ・世帯数に対して構成員が少ないのは、古宿2区(豊川市)、吉川町(豊橋市)、多米二丁目(豊橋市)、赤石(田原市)等の人口増加地域や人口密集地域であった(表3-5)。

② 組織員の男女比(%比)

- ・組織員の男女比をみると、男性の比率が高かった(表3-5)。
- ・組合員が男性のみの地区は、古宿2区(豊川市)、国府下町(豊川市)、赤石(田原市)、津具3区(設楽町)、御園(東栄町)、古戸(東栄町)の6地区(25%)であった(表3-5)。
- ・組合員に女性が半数以上参加している自主防災会は、吉川町、弥生松原、坂宇場区、下黒川区の4地区(16.6%)であった。坂宇場区、下黒川区の2地区(8.3%)は、山間過疎地域で人口減少や高齢化が進み、加齢に伴って男性が防災活動から欠ける傾向が推測される。
- ・女性の参加が防災活動にどう影響するのか検討する必要がある。

表3-5 世帯数・組織員構成数・男女比

自治体	自主防災会	世帯数	構成人数	男女比	地勢
豊橋市	吉川町	687	5	3対2	海拔の低い地域・人口増加地域
	弥生松原	2159	20	1対4	人口密集地域の地区
	多米東町二丁目	433	4	4対1	山間地域の地区
豊川市	古宿2区	355	2	2対0	人口密集地域の地区
	国府下町	370	6	6対0	人口密集地域
	伊奈	1066	12	4対1	海拔の低い地域・津波警戒地区
蒲都市	相楽町	95	9	2対1	山間地域
	東区	802	30	13対2	海拔の低い地域・津波警戒地区
	拾石町	885	17	15対2	海拔の低い地域・人口密集地
田原市	浦区	395	46	45対1	人口増加型地域
	赤石	394	4	1対0	海拔の低い地域・人口増加地域
	堀切	412	43	4対1	海拔の低い地域・津波警戒地区
新城市	入船	264	18	2対1	人口密集地域
	下吉田	252	116	4対1	山間地域・行政合併地区
	秋葉巢山	27	17	7対1	山間地域・人口過疎地域

設楽町	栄町区	100	12	9 対 1	山間地域・人口密集地・過疎地域
	大平区	61	5	4 対 1	山間地域・人口過疎地域
	津具 3 区	101	10	10 対 0	山間地域・人口過疎地域
東栄町	本郷	353	4	3 対 1	山間地域・人口過疎地域
	御園	44	9	9 対 0	山間地域・人口過疎地域
	古戸	78	10	10 対 0	山間地域・人口過疎地域
豊根村	下黒川区	115	—	2 対 3	山間地域・人口過疎地域
	坂宇場区	144	—	2 対 3	山間地域・人口過疎地域
	富山区	46	—	1 対 1	山間地域・人口過疎地域

③ 組織員の年代

最も多い年代は、60代が20地区(83.3%)で、次いで50代が13地区(54.1%)、40代が12地区(50.0%)となっていた。また、70代が10地区(41.7%)、80代が4地区(16.7%)と、組織員の年代の高年齢化傾向が伺えた。一方、30代は8地区(33.3%)で20代は4地区(16.7%)と少なかった(図3-4)。

表3-6に示すように、20代から30代が参加しているのは吉川町(豊橋市)、下黒川区(豊根村)、坂宇場区(豊根村)、富山区(豊根村)、国府下町(豊川市)、相楽町(豊川市)、堀切(田原市)、赤石(田原)4地区(16.6%)であった(表3-6)。高齢化で、若年層が少ない地域である下黒川区(豊根村)、坂宇場(豊根村)、富山区(豊根村)は、消防団と連携が考えられる。堀切(田原市)は、太平洋沿岸で海拔の低い地域であることから、各年代の危機意識の高さが伺える。

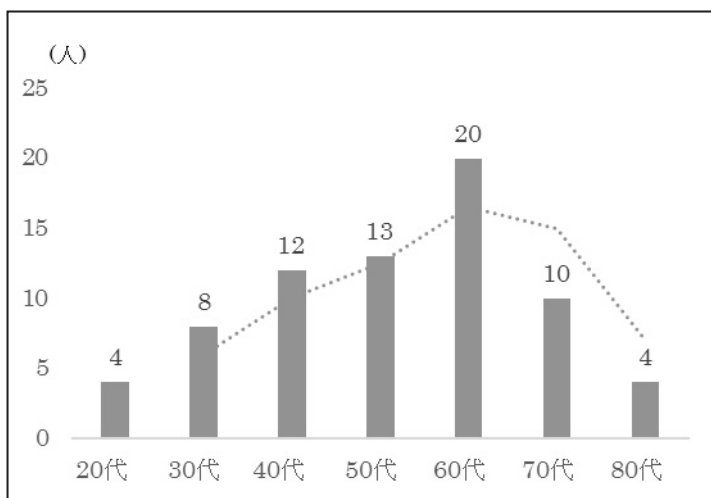


図3-4 組織員の年代分布

表 3-6 組織員の年代

(○はその年代に該当する組員がいる場合、-は記述なし)

自治体	防災会	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
豊橋市	吉川町	○	○	○	○	○	○	○
	弥生松原			○		○		
	多米東町二丁目				○	○	○	
豊川市	古宿2区			○	○	○	○	
	国府下町		○	○	○	○	○	
	伊奈					○		
蒲郡市	相楽町		○	○	○	○	○	
	東区				○			
	拾石町					○		
田原市	浦区			○				
	赤石		○	○	○	○		
	堀切		○	○	○	○	○	
新城市	入船					○		
	下吉田					○		
	秋葉巢山					○		
設楽町	栄町区			○	○	○	○	○
	大平区				○	○		
	津具3区					○		
東栄町	本郷	-	-	-	-	-	-	-
	御園	-	-	-	-	-	-	-
	古戸					○		○
豊根村	下黒川区	○	○	○	○	○	○	○
	坂宇場区	○	○	○	○	○	○	○
	富山区	○	○	○	○	○	○	

3-5. 自主防災会の防災活動の現況

各自主防災会の防災活動（防災訓練・意見交換・勉強会）の現況を整理する。

①防災活動状況(防災訓練・意見交換・勉強会)

- ・防災訓練は、24地区(100.0%)のすべての自主防災会で実施されていた(図3-5,表3-7,図3-7)。
- ・意見交換会は13地区(54.2%)で実施されており、勉強会は11地区(45.8%)で実施されていた。
- ・防災訓練・意見交換・勉強会を実施していた活発な自主防災会は、9地区(37.5%)であった(図3-5,図3-7)。
- ・防災訓練のみ実施していたのは、9地区(37.5%)で、津波想定区域の伊那(豊川市)、海拔が低く、人口増加地域の赤石(田原市)、山間地域で孤立化や過疎地域で高齢化が進む地域の秋葉巢山(新城市)・

大平区（設楽町）・津具3区（設楽町）・本郷（東栄町）・御園（東栄町）・下黒川区（豊根村）・富山区（豊根村）であった（図3-6, 図3-7）。

防災訓練・意見交換・勉強会を実施していたのは、9地区（37.5%）で、海拔が低く、人口増加地域の吉川町（豊橋市）、都市部に近い山間地域の多米東町二丁目（豊橋市）、相楽町（蒲郡市）、人口密集地域の国府下町（豊川市）や入船（新城市）、海拔が低い拾石町（蒲郡市）、人口増加地域の浦区（田原市）、山間地域の栄町区（設楽町）と古戸（東栄町）が、活発に活動をしていた（図3-6, 図3-7）。

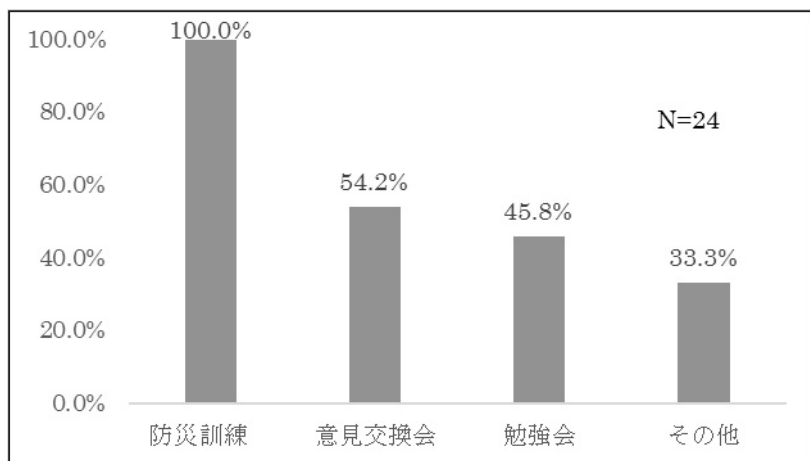


図3-5 各防災活動の実施の割合（複数回答）

表3-7 防災活動の開催地区（複数回答） N=24

活動項目	開催地区数
防災訓練	24(100%)
意見交換会	13(54.2%)
勉強会	11(45.8%)
その他	8(33.3%)

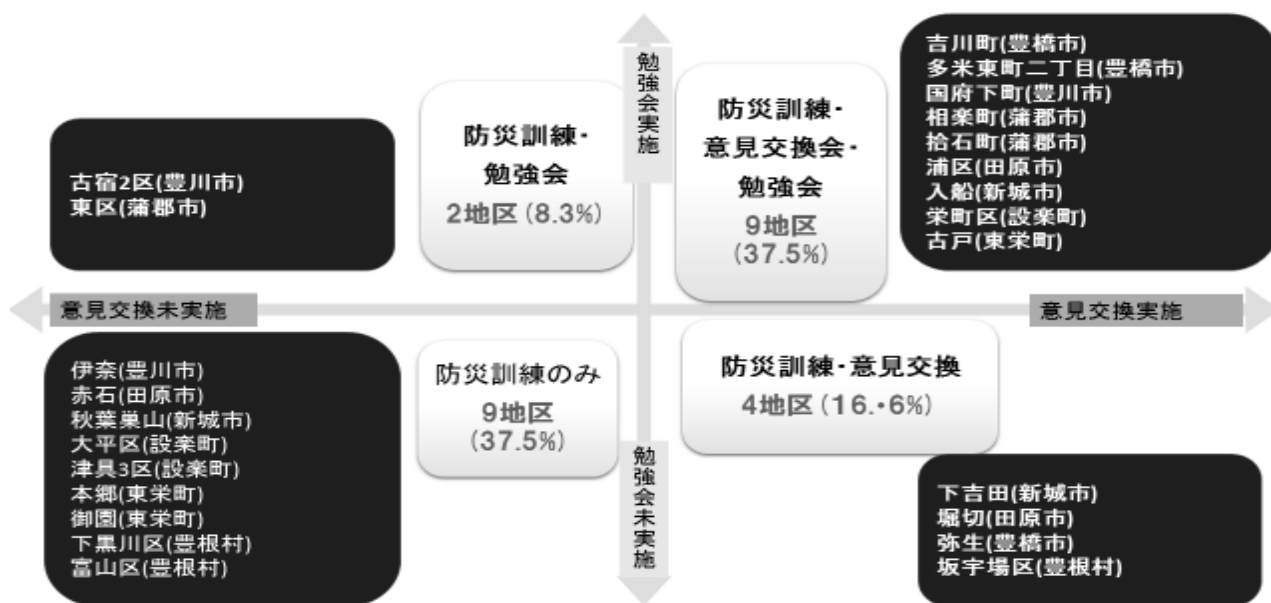


図3-6 防災訓練・意見交換・勉強会の振り分け

②防災活動の回数と自主防災会

・防災訓練は1回～3回、意見交換と勉強会は、1回～5回と幅があった。最も多かった回数は、防災訓練が1回で19地区（79.2%）、意見交換は、2回で5地区（20.8%）、勉強会は1回で7地区（29.1%）であった（表3-8）。

表3-8 各防災活動の回数と地区数 （地区数）

	1回	2回	3回	4回	5回
防災訓練	19	4	1	0	0
意見交換会	2	5	1	1	2
勉強会	7	0	1	2	1

a) 防災活動回数が多い自主防災会

防災活動回数が多い自主防災会は、3-5 自主防災会の防災活動の現況の①防災活動状況で先述した9地区で、防災活動は、防災訓練、意見交換、勉強会等を、複数回実施していた（図3-7）。

複数回防災訓練を実施している自主防災会は、海拔が低く、津波や液状化現象が発生しやすい警戒地域や山間地域で土砂崩れなどが発生しやすい地域であり、住民の危機意識が自主防災会の防災訓練を活発化させているともいえる。

b) 防災活動回数が少ない自主防災会

防災活動回数を1回実施している自主防災会は、9地区であった（図3-6, 表3-9）。

1回の防災訓練を実施できることが精一杯であるとすれば、9地区の自主防災会を取り巻く環境に応じた実質的な活動内容に変化させていく必要がある。

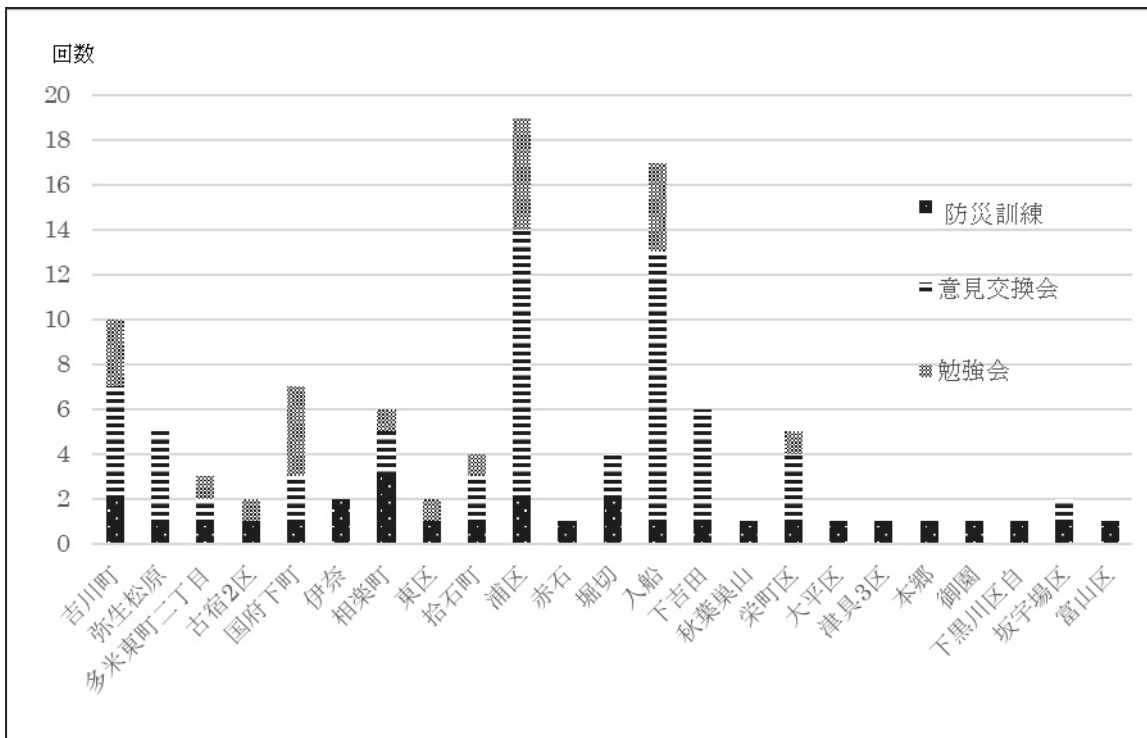


図3-7 防災訓練・意見交換・勉強会の各自主防災会の実施回数

表 3-9 防災訓練 1 回の自主防災会の特性

地勢・人口の特性	防災訓練 1 回の自主防災会 (9 地区)
海拔の低い人口密集地	<ul style="list-style-type: none"> ・赤石 (田原市:394 世帯) ・伊奈(豊川市:1066 世帯)
山間地域過疎地域	<ul style="list-style-type: none"> ・大平区(設楽町:61 世帯) ・御園(東栄町:44 世帯) ・古戸(東栄町:78 世帯) ・秋葉巢山(新城市:27 世帯) ・津具 3 区(設楽町:101 世帯) ・下黒川区(豊根村:115 世帯) ・富山区(豊根村:46 世帯)

防災訓練は、24 地区(100.0%)のすべての自主防災会で実施されていたが、意見交換会や勉強会の実施については、ばらつきがみられた。防災活動のばらつきが、地域防災体制の課題ともいえ、地域防災活動のばらつきの要因や自主防災会の活動を行政は定期的に把握し、アセスメントしながら対応策を考えていく必要がある。

④ 取り組んでいる内容・意識している活動

次に示すように、自主防災会が取り組んでいる活動を「外部との活動の取組み」と「内部との活動の取組み」の 2 つに分類した(表 3-10)。

「外部との活動の取組み」の項目〈3 項目〉

- ① 行政と連携した防災活動を進めている
- ② さまざまな分野の地域住民や事業所と連携した防災活動をしている
- ③ 東三河の他の自治体の地域と交流し防災活動をしている

「内部との取組み」項目〈8 項目〉

- ④ 平常時の活動、災害時に分けて活動している
- ⑤ 実際の災害を想定して防災活動をしている
- ⑥ 防災活動の広報活動の手法を工夫している
- ⑦ 住民が自主防災活動に参加しやすいような取組みをしている
- ⑧ 住民の災害の危機意識を高める為の活動をしている
- ⑨ 住民の自助の意識を高める為の活動をしている
- ⑩ 住民の共助の意識を高める為の活動をしている
- ⑪ 住民の中の要援護者との違い統一する支援をするための活動をしている

1) 「外部との取組み」の現況

「①行政と連携して防災活動をしている」自主防災会は、21 地区 (87.5%) と多く、3 地区は「公助に依存することなく、自主防災活動をしていた。相楽(蒲郡市)の防災活動は、「③東三河の他の自治体の地

域と交流し防災活動をしている」であった。また、「伊那」（豊川市）、赤石（田原市）は、独自で自主防災活動を運営していた。

「②さまざまな分野の地域住民や事業所と連携した防災活動をしている」は、半数以下の10地区（41.7%）であった。「③東三河の他の自治体の地域と交流し防災活動をしている」は、2地区（8.3%）にとどまった（表3-10）。

吉川町（豊橋市）のみが、「①行政と連携して防災活動をしている」、「②さまざまな分野の地域住民や事業所と連携した防災活動をしている」、「③東三河の他の自治体の地域と交流し防災活動をしている」と連携しながら活動していた（表3-10）。

2) 「内部との取組み」の現況

「実際の災害を想定した活動」が16地区（66.7%）と最も多かった。次に、「共助の意識を高める」14地区（58.3%）、「自助の意識を高める」12地区（50.0%）、「住民の災害の危機意識を高める為の活動をしている」11地区（45.8%）であり、半数近くの自主防災会は、実質的な取組みをして、住民の「共助」「自助」を高めるように取り組んでいることがわかった（表3-10、表3-11）。

表3-10 取り組んでいること、意識している防災活動（複数回答）

分類	質問項目	地区数	割合
外部と取組み	①行政と連携した防災活動を進めている	21	87.5%
	②さまざまな分野の地域住民や事業所と連携した防災活動をしている	10	41.7%
	③東三河の他の自治体の地域と交流し防災活動をしている	3	12.5%
内部の取組み	④平常時の活動、災害時に分けて活動している	4	16.7%
	⑤実際の災害を想定して防災活動をしている	16	66.7%
	⑥防災活動の広報活動の手法が工夫している	3	12.5%
	⑦住民が自主防災活動に参加しやすいような取組みをしている	11	45.8%
	⑧住民の災害の危機意識を高める為の活動をしている	11	45.8%
	⑨住民の自助の意識を高める為の活動をしている	12	50.0%
	⑩住民の共助の意識を高める為の活動をしている	14	58.3%
⑪住民の中の要支援者の支援をするための活動をしている	8	33.3%	
	⑫その他	5	20.8%

3) 取組みから見える各自主防災会の「取組み活動度」

各自主防災会の活動状況をアセスメントするため、「外部との取組み」「内部の取組み」の質問項目を点数化し、「取組み活動度」とした。ただし、自主的な活動を把握するため、「②行政と連携した防災活動を進めている」については除き各1項目1点とし10項目で10点満点とした（図3-8）。

① 各自主防災会の「取組み活動度」

「取組み活動度」が最も高かったのは、「吉川町（豊橋市）」の10点であった。「吉川町（豊橋市）」は、全取組み項目に該当しており、活発な活動をしていることが伺えた。次いで、「入船（新城市）」9点であった。上位2地区とも、近隣の自主防災会や他の自治体と連携し自主的な防災活動を実施していた。

「取組み活動度」が最も低かったのは、「大平区（設楽町）」0点で、次いで「多米東町二丁目（豊橋市）」、「浦区（田原市）」、「赤石（田原市）」、「堀切（田原市）」、「本郷（東栄町）」、「御園（東栄町）」、「下黒川区（豊根村）」の1点であった

行政以外で外部と連携している活動している自主防災会は10地区(41.7%)で、半数に満たなかった(図3-8、表3-12)。

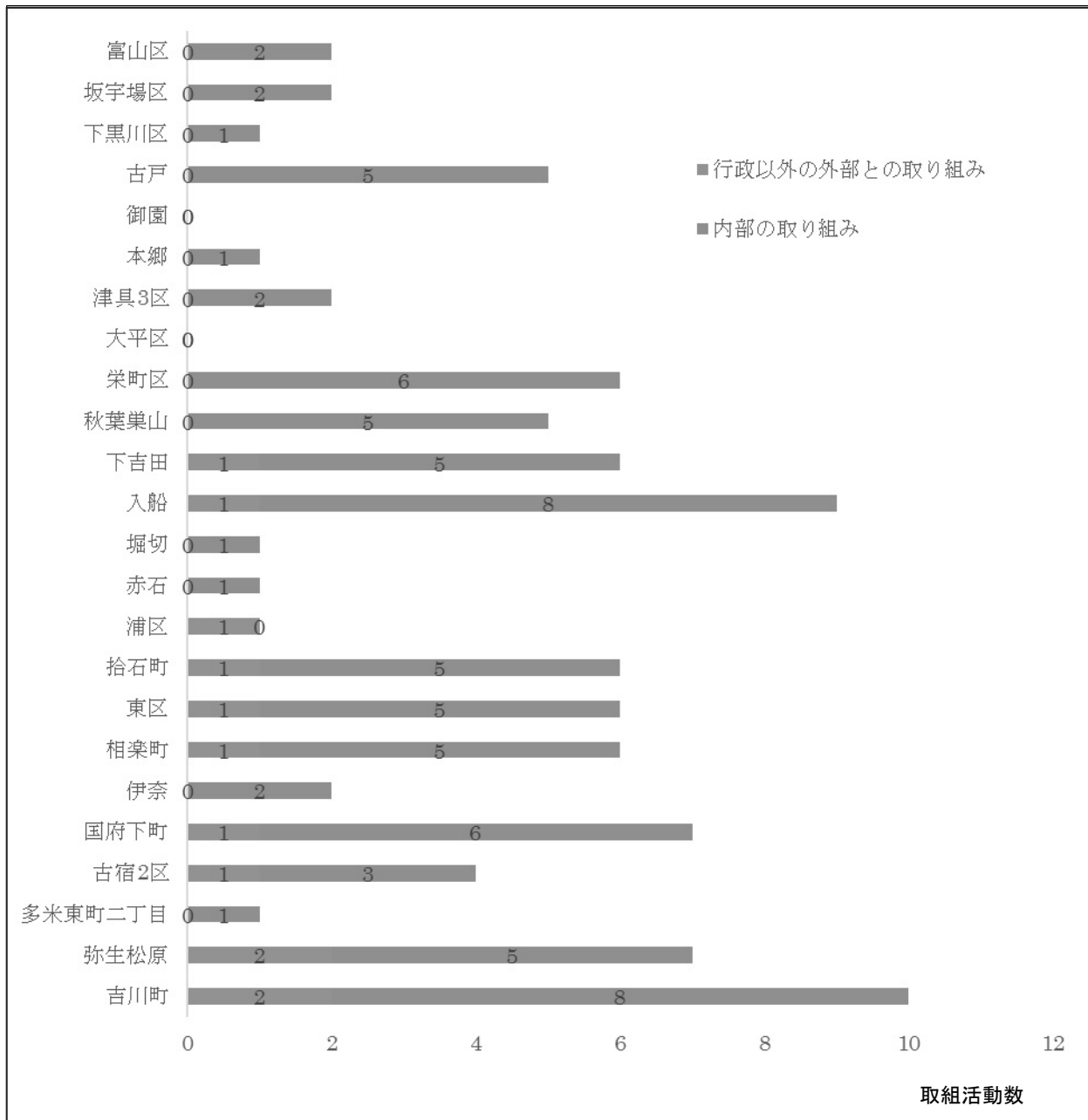


図3-8 各自主防災会の取組み活動度

表3-11 「行政以外の取組み」・「内部の取組み」・取組み活動度

自治体	自主防災会	行政以外の外部との取組み	内部の取組み	取組活動度
豊橋市	吉川町	2	8	10
	弥生松原	2	5	7
	多米東町二丁目	0	1	1
豊川市	古宿2区	1	3	4
	国府下町	1	6	7
	伊奈	0	2	2
蒲郡市	相楽町	1	5	6
	東区	1	5	6
	拾石町	1	5	6
田原市	浦区	1	0	1
	赤石	0	1	1
	堀切	0	1	1
新城市	入船	1	8	9
	下吉田	1	5	6
	秋葉巢山	0	5	5
設楽町	栄町区	0	6	6
	大平区	0	0	0
	津具3区	0	2	2
東栄町	本郷	0	1	1
	御園	0	0	0
	古戸	0	5	5
豊根村	下黒川区	0	1	1
	坂宇場区	0	2	2
	富山区	0	2	2

表3-12 各自主防災会の取組み状況

○=該当記述あり ×記述なし

自治会	自主防災会	外部との取組み			外部との取組み							
		①行政と連携した防災活動を進めている	②さまざまな分野の地域住民や事業所と連携した防災活動をしている	③東三河の他の自治体の地域と交流し防災活動をしている	④平常時の活動、災害時に分けて活動している	⑤実際の災害を想定して防災活動をしている	⑥防災活動の広報活動の手法が工夫されている	⑦住民が自主防災活動に参加しやすいような取組みをしている	⑧住民の災害の危機意識を高める為の活動をしている	⑨住民の自助の意識を高める為の活動をしている	⑩住民の共助の意識を高める為の活動をしている	⑪住民の中の要支援者の支援するための活動をしている
豊橋市	吉川町	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	弥生松原	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	×
	多米東町二丁目	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×
豊川市	古宿2区	○	○	×	×	○	×	×	○	×	○	×
	国府下町	○	○	×	×	○	×	○	○	○	○	○
	伊奈	×	×	×	×	○	×	×	×	○	×	×
蒲郡市	相楽町	×	○	×	×	○	×	○	○	○	○	×
	東区	○	○	×	×	○	×	×	○	○	○	○
	拾石町	○	○	×	×	○	○	○	×	○	○	×
田原市	浦区	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	赤石	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×
	堀切	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×
新城市	入船	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
	下吉田	○	○	×	×	○	×	○	×	○	○	○
	秋葉巢山	○	×	×	×	○	×	○	○	○	○	×
設楽町	栄町区	○	×	×	○	○	×	×	○	○	○	○
	大平区	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	津具3区	○	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×
東栄町	本郷	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×
	御園	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	古戸	○	×	×	○	×	×	○	○	×	○	○
豊根村	下黒川区	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
	坂宇場区	○	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×
	富山区	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○

②「総合活性度」〔実施回数と取組み活動度〕

各自主防災会の活動を総合的に把握するため、「各防災活動の実施回数」と「取組み活動度」を合わせ「総合活性度」として、図 3-9、表 3-13 に表した。

その結果、「総合活性度」が最も得点が高かったのは、「入船（新城市）」26 点、次いで「浦区（田原市）」、「吉川町（豊橋市）」の 20 点であった。最も得点が低かったのは、「大平区（設楽町）」1 点であり、次いで「赤石（田原市）」2 点であった（図 3-9、表 3-13）。

「総合活性度」が高い自主防災会は、「勉強会」、「意見交換会」が頻回に行われており、活動頻度が多かった。一方、「総合活性度」が低い「大平区（設楽町）」はマンパワー不足による防災活動の低下が考えられ、「赤石（田原市）」は地域コミュニティ力の低下と地域の災害認識の低さが考えられる。

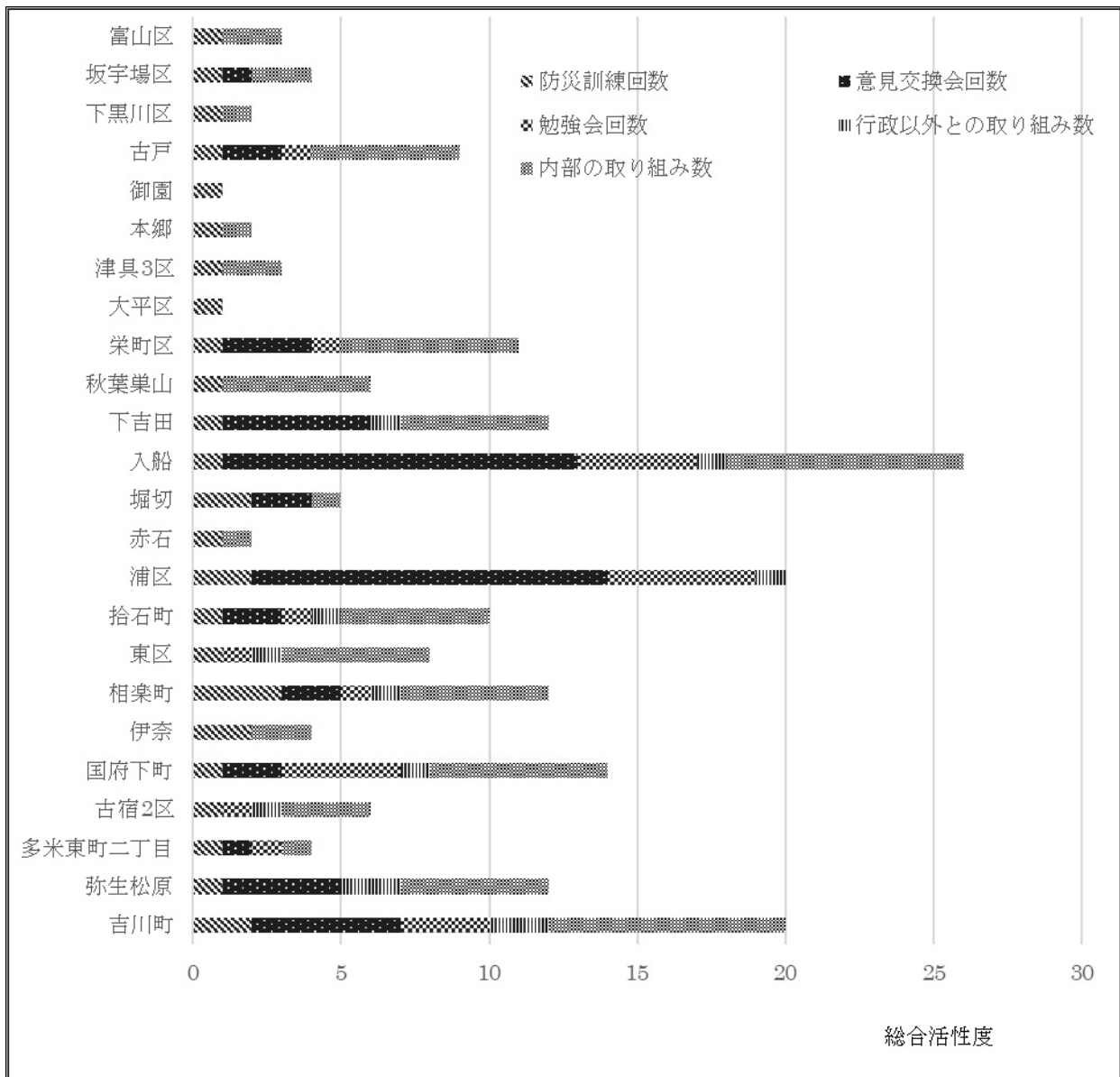


図 3-9 各自主防災会の「総合活性度」

表 3-13 各自主防災会の総合活性度

自治体	防災会	防災訓練回数	意見交換会回数	勉強会回数	行政以外との 取り組み	内部の取り組み	総合活性度
豊橋市	吉川町	2	5	3	2	8	20
	弥生松原	1	4	0	2	5	12
	多米東町二丁目	1	1	1	0	1	4
豊川市	古宿2区	1	0	1	1	3	6
	国府下町	1	2	4	1	6	14
	伊奈	2	0	0	0	2	4
蒲郡市	相楽町	3	2	1	1	5	12
	東区	1	0	1	1	5	8
	拾石町	1	2	1	1	5	10
田原市	浦区	2	12	5	1	0	20
	赤石	1	0	0	0	1	2
	堀切	2	2	0	0	1	5
新城市	入船	1	12	4	1	8	26
	下吉田	1	5	0	1	5	12
	秋葉巢山	1	0	0	0	5	6
設楽町	栄町区	1	3	1	0	6	11
	大平区	1	0	0	0	0	1
	津具3区	1	0	0	0	2	3
東栄町	本郷	1	0	0	0	1	2
	御園	1	0	0	0	0	1
	古戸	1	2	1	0	5	9
豊根村	下黒川区	1	0	0	0	1	2
	坂宇場区	1	1	0	0	2	4
	富山区	1	0	0	0	2	3

3-6. 24地区の自主防災会の防災活動の現況の評価のまとめ

(1) 24 地区の自主防災会の活動と「総合活性度」の評価

総合活性度の高い「入船（新城市）」は、活動頻度も「取組み活動度」も高かった。「浦区（田原市）」は、活動頻度は多かったが、「取組み活動度」が極端に低かった。「吉川町（豊橋市）」は、「取組み活動度」が最も高かったが、活動頻度は、2 区より少なかった。

一方、総合活性度の最も低かった「大平区（設楽町）」、次いで低かった「赤石（田原市）」とは、山間地域と人口過疎、海拔が低く人口増加地域と、まったく地勢も人口の特性も異なっている。

「大平区（設楽町）」は、高齢化や過疎化の影響を受け、マンパワー不足による活動が低迷していることが推測され、「赤石（田原市）」は、賃貸住宅地であることから、マンパワーはあるが、積極的な自主防災活動が実施できる環境でないため、地域活動が低迷していることが推測される。

(2) 「取組み活動度」・「総合活性度」と「取組項目・課題項目」の相関

① 「取組み活動度」と「取組項目・課題項目」

「取組み活動度」と「取組項目」をピアソンの順位相関係数で検討した。その結果、「取組み活動度」と「⑩ 住民の共助の意識を高める為の活動をしている」 ($r=0.784$) ($p<0.01$) と「⑨ 住民の自助の意識を高める為の活動をしている」 ($r=0.761$) ($p<0.01$) と「② さまざまな分野の地域住民や事業所と連携した防災活動をしている」 ($r=0.702$) ($p<0.01$) の間には、高い正の相関が認められた。

課題項目では、「⑤ 資金不足」 ($r=0.539$) ($p<0.01$) と「③ 防災組織活動の役割」の間 ($r=0.522$) ($p<0.01$) には、低い正の相関が認められた。

② 「総合活性度」と「取組項目・課題項目」

「総合活性度」と「② さまざまな分野の地域住民や事業所と連携した防災活動をしている」 ($r=0.742$) ($p<0.01$) の間には、統計学的に有意に高い正の相関が認められた。また、「⑥ 防災活動の広報活動の手法を工夫している」 ($r=0.603$) ($p<0.01$) についても正の相関が認められた。

課題項目では、「資金不足」と低い相関を示した ($r=0.452$) ($p<0.01$)。

3-7. 3地区のアンケートからみた自主防災会の活性化の要因

3-7では、「総合活性度」の高低の背景を探るため、最も低かった「大平区（設楽町）」と「取組み活動度」が最も高く、「総合活性度」が高値を示した「吉川町（豊橋市）」と山間地域の中で「総合活性度」が高い「栄町区（設楽町）」の自主防災会の活動を促進する要因を探る。

1 調査の方法

(1) アンケート調査

平成29年6月～7月に3地区の自主防災会に対して、再調査を実施した。各地区とも各自治体の協力を得て、配布し郵送により回収した。

対象地区と選択理由を以下に記す。

A) 吉川町（豊橋市）（海拔の低い地域・人口増加地域）

理由：「取組み活動度」及び「総合活性度」の評価が高い地区、他の地域との取り組みが見られ、独自の組織を作っている

B) 大平区（設楽町）（山間地域・過疎地）

理由：「取組み活動度」及び「総合活性度」の評価が低い

C) 栄町区（設楽町）（山間地域の人口密集地）

理由：山間地域は比較的、活動活性度や「総合活性度」が低い傾向にあるが、比較的高い傾向にあった。また、「女性リーダー」に着眼していた。大平区とは、同町内にあった。

・ 調査目的

総合活性度からみた自主防災会の活動の阻害や促進する要因を探る。

・アンケート内容

平成 28 年度の実態調査の各自主防災会の回答をもとにした質問項目は以下のとおりである。

A:大平区（設楽町）

1. 高齢者の 1 人暮らしの人を住民同士で助ける困難理由と考え
2. 住んでいる人数や家族構成、障害の状態が把握できている強みを防災に活かせるか
3. 行政との連携内容
4. 近隣の福祉施設や学校などと連携活動
5. 他の地域の自主防災会と防災交流

B:吉川町（豊橋市）

1. 外部との取組み理由と内容(行政 地域の事業所 他地域)
2. 住民の中の要支援者の支援する活動方法
3. 住民が自主防災活動に参加しやすいような取組み方法
4. 住民の災害の危機意識を高めるための活動方法
5. 若者の参加率が低い要因への考え
6. 防災意識の低さの要因への考え
7. 独自の組織を作り上げた理由と課題

C:栄町区（設楽町）

1. 女性スタッフの参加を必要とした理由
2. 女性スタッフが参加したことで、変化したこと
3. 現在の女性スタッフの年代をご記入ください。
4. 自主防災活動を活性化させる上での女性スタッフへの期待
5. 自主防災組織の活性化を目指した規約の見直しの実際
6. 住民の災害意識の高揚を図る企画方法
7. 災害時の要支援者の避難時や安否確認時に助け合える具体的な体制

2 結果及び考察

大平区（設楽町）は、「総合活性度」が低かった要因は、「高齢化」「過疎化」によりマンパワーが不足しており、お互いの助け合いが成立しない状況にあることが、要因と考えられ、行政と連携した防災訓練が精一杯という現状であった。外部からの人手が必要とする中で、災害時は、山間部であり孤立する可能性がある、今後は、ますます、高齢化が進み、要援護者高齢者増加が推測される。

しかし、「小さな地域」で、「顔なじみ」での「安心感」があり、「住民同士が顔見知り」である事が、大平区（設楽町）の防災上の強みといえる。

吉川（豊橋市）は、「取組み活動度」及び「総合活性度」が高い要因は、「組織のしくみ」であった。自主防災会の弱点を補強すべく「サポーターズクラブ吉川」という防災に興味のある自由参加できる組織である。町内独自で防災教育にも一躍を担っていた。こういった仕組みにより、「リーダー人材」の発掘、「住民の災害意識の向上」や「コミュニティづくり」につながっていた。

栄町区（設楽町）は、「総合活性度」が低い傾向にある山間地域の中で比較的高い値を示していた要因は、「女性スタッフの参加を促す」などの工夫をしたことが要因になっていた。

女性の参加を促すことで、避難訓練時に女性の参加が増加する等の成果を挙げている。これまで、男性目線での防災活動を女性目線で展開していくことで、より活動がきめ細やかにできるようになっていた。

3 まとめ

3つの地区でのアンケート結果から、地域の活動を阻害する要因は、高齢化、過疎化であり、促進する要因は、組織のしくみ、女性の参加であることがわかった。また、防災活動は、地域の活動の延長線上にあることから、防災課題は、地域の課題ともいえる。

今回、「総合活性度」高低の地区を比較して、東三河地域内では、地域の特性により、両極端なケースがあることがわかった。弱体化しつつある自主防災会は、日ごろの火災の防止（火の用心の見回り、啓発）や消火34訓練、避難訓練、ましてや大規模災害において避難生活に必要な活動、災害弱者の情報を把握し、安否確認を行うことは、困難になってきている。

今後、現在、「総合活性度」の高い地域においても、住民の善意と自主性に基づく活動は、若い世代に伝わりにくい。既存組織を超えるつながりや「学習」を生み出すなにかしらの「しかけ」をしなければ、自主防災組織が機能不全に陥らないようにしていくことが必要である。

したがって、自主防災活動を、暮らしに根ざした新たなコミュニティを形成していく機会として捉え、地域で災害に対する意味のある訓練をするなどの視点が必要であろう。

第4章 24地区の自主防災会の課題

第4章 24地区の自主防災会の課題

4-1. 自主防災組織の課題

- ・最も多かった課題は、「リーダー人材」16地区(66.7%)である。
- ・次いで「防災組織の役割」15地区(62.5%)、「若年層の参加率」・「住民の災害意識」13地区(54.2%)である(図4-1, 表4-1)。
- ・最も少なかった課題は、「活動拠点」3地区(12.5%)で、次いで「資金不足」6地区(25.0%)であった。防災活動の基礎となる「地域コミュニケーション」は、7地区(29.2%)と少なかった(図4-1, 表4-1)。

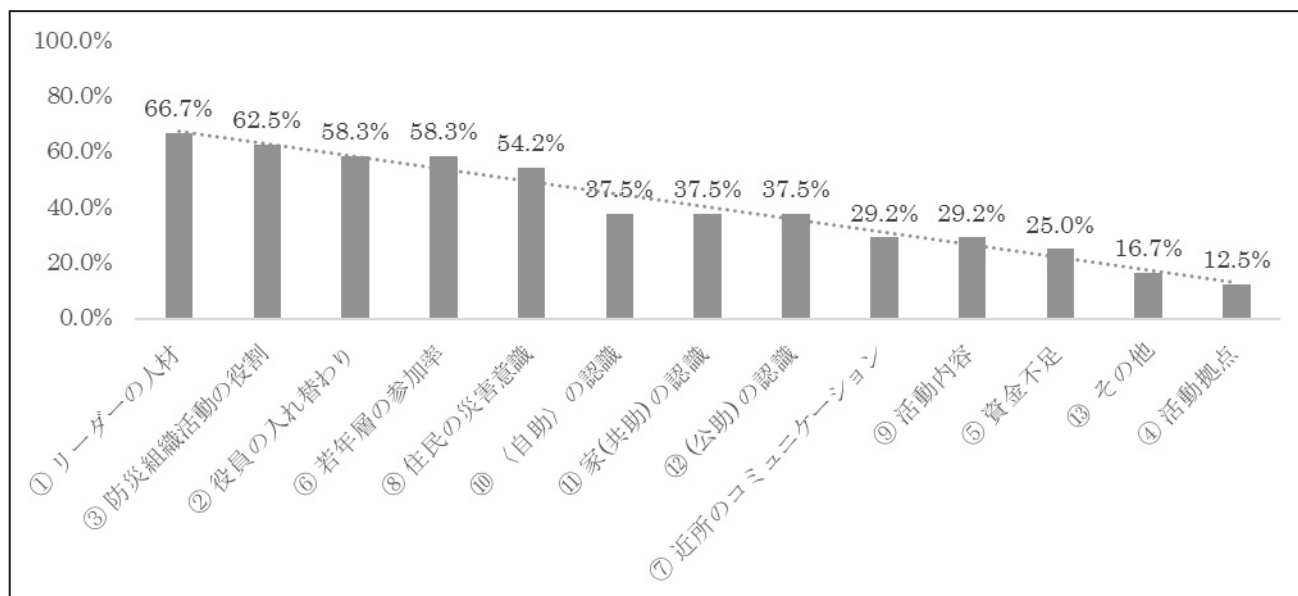


図4-1 自主防災会の課題

表4-1 自主防災会の課題

課題	地区数	割合
① リーダーの人材	16	66.7%
② 役員の入替わり	14	58.3%
③ 防災組織活動の役割	15	62.5%
④ 活動拠点	3	12.5%
⑤ 資金不足	6	25.0%
⑥ 若年層の参加率	14	58.3%
⑦ 近所のコミュニケーション	7	29.2%
⑧ 住民の災害意識	13	54.2%
⑨ 活動内容	7	29.2%
⑩ 〈自助〉の認識	9	37.5%
⑪ 家(共助)の認識	9	37.5%
⑫ (公助)の認識	9	37.5%
⑬ その他	4	16.7%

4-2. 「総合活性度」別から見た各自主防災会の課題の特性

4-2 では、「総合活性度」が低い群(0点から3点の地域)と高い群(20点から26点の地域)の自主防災会の課題の特性を整理して、自主防災会の活動の活性化のあり方を探る。

(1) 「総合活性度」が最も低い自主防災会

- ・「総合活性度」が0点から3点の地域であったのは、7地区であった。この7地区は、「防災訓練を1回のみ実施」しており、7地区のうち6地区が、山間地域で過疎地域であった。
- ・7地区は、「リーダー人材」・「役員の入れ替わり」(5地区・71.4%)の課題が最も多く、次いで「防災組織活動の役割」・「住民の災害意識」(4地区・57.1%)であった(表4-2)。
- ・最も多く課題を認識していたのは、本郷(東栄町)で、13項目中9項目を課題としていた。また、課題が少なかったのは、津具3区(設楽町)・下黒川区(豊根村)・富山区(豊根村)で、13項目中3項目であった。

以上から、「総合活性度」が最も低い自主防災会には、多くの課題を認識はしていても「取り組み活動度」が低いので、「課題」への対応が「困難な」状況、すなわち、組織の弱体化が伺えた。その要因が、自主防災会の活動を阻害する要因といえる。

(2) 「総合活性度」が最も高い自主防災会

- ・「総合活性度」は、20点から26点の地域は3地区で、3地区の共通する課題は、「若年層の参加率」で、自主防災会の継続が課題であった(表4-2)。
- ・1地区は13項目中12項目と多くの課題を認識しており、課題解決に向け多く取組んでいたため、「総合活性度」が高かったといえる。一方、2地区は、課題数が2項目以内と少なかったが、「意見交換」「勉強会」を頻回に実施していたため、「総合活性度」は高かった。

以上から、「総合活性度」が最も高い自主防災会は、課題を認識できるリーダーの存在と、頻回な意見交換会が暮らしに根ざした新たなコミュニティを形成していく触媒となって、自主防災会の活性化につながっていると推測される。

(3) 「総合活性度」の高低と地勢や人口の特性

- ・「総合活性度」が低い傾向にあったのは主に山間地域・過疎地域であった。「課題」を多く認識しているが、「内部の取り組み」が「できない」状況が伺えた(表4-2)。
- ・「総合活性度」の比較的高い地域は、海拔が低く人口増加地域等であり、津波や液状化現象が起きやすい地域であった。

以上から、「地域の災害への理解」と「危機意識」からの「住民観」が地域防災活動の基礎になると考える。

表 4-2 総合活動度順位と自主防災会の課題

		①から⑳については、1=課題と認識している 0=課題と認識していない																										
防災会		防災訓練回数	意見交換回数	勉強会回数	行政以外との取組	内部の取組	総合活動度	①リーダーの人材	②役員の入替わり	③防災組織活動の役割	④活動拠点	⑤資金不足	⑥若年層の参加率	⑦近所のコミュニケーション	⑧住民の災害意識	⑨活動内容	⑩(自助)の認識	⑪(共助)の認識	⑫(公助)の認識	⑬その他	山間地域	海抜の低い地域	津波警戒地区	人口過疎地域	人口増加地	人口密集地域	行政合併地区	
致楽町	大平区	1	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	○			○			
田原市	赤石	1	0	0	0	1	2	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	○			○			
東栄町	本郷	1	0	0	0	1	2	0	1	1	0	1	1	1	1	0	1	1	1	0	○			○				
東栄町	御園	1	0	0	0	1	2	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	○			○				
豊根村	下黒川区	1	0	0	0	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○			○				
致楽町	津島3区	1	0	0	0	2	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	○			○				
豊根村	高山区	1	0	0	0	2	3	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	○			○				
豊根村	坂宇地区	1	1	0	0	2	4	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	○			○				
豊橋市	多栄町二丁目	1	1	1	0	2	5	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	○							
豊川市	伊奈	2	0	0	0	3	5	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		○	○					
田原市	堀切	2	2	0	0	1	5	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0		○	○					
豊川市	古宿2区	1	0	1	1	3	6	1	1	0	0	0	1	1	1	0	0	1	1	0						○		
新城市	秋葉山	1	0	0	0	5	6	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	○			○				
滝都市	東区	1	0	1	1	5	8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		○	○					
東栄町	古戸	1	2	1	0	5	9	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	○			○				
滝都市	拾石町	1	2	1	1	5	10	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0		○	○					
致楽町	栄町区	1	3	1	0	6	11	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	○			○				
滝都市	相楽町	3	2	1	1	5	12	1	1	1	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	○							
新城市	下吉田	1	5	0	1	5	12	1	1	1	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	○						○	
豊橋市	弥生松原	1	4	0	2	6	13	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1							○	
豊川市	国府下町	1	2	4	1	7	15	1	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1	1	0						○		
豊橋市	吉川町	2	5	3	2	8	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0		○			○			
田原市	浦区	2	12	5	1	0	20	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0					○			
新城市	入船	1	12	4	1	8	26	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0						○		

4-3. 自由記述にみる組織の工夫

自主防災会は、先に述べたような各課題を抱えていることが明らかになった。4-3 では、課題に対する各自主防災会の工夫等の自由記述を整理する。地区数は、24 地区の自主防災会が課題とした地区数を表す。

「リーダーの人材」：16 地区(66.7%)

- ・工夫) 防災リーダー養成講座や行政の行うフォローアップ研修に参加する
- ・希望) 自主的に防災リーダー講座を受講する人は少ない、行政から推薦してほしい

「防災組織活動の役割」：15 地区(62.5%)

- ・工夫) 「平日頃の顔と顔が見える関係作り」、「地域消防団との連携を強化し、相互に補完しあう」、「現在の予算での行動」をしている

「若者参加率」：14 地区(58.3%)

- ・工夫) 防災訓練の曜日に調整等、「小学校・中学校との連携」
- ・課題) 防災訓練は、学校でも実施されてはしているが、発災時は、学校が避難所になり、子どもや教員と地域住民とどのような訓練が必要か、校区の複数の自主防災会組織と連携していくか、等は実際を想定した活動が必要である。

「役員の入れ替わり」：14 地区(58.3%)

- ・工夫) 「任期が短いため、他の役職と兼職しながらカバーしている。」

「引継ぎの充実させる」

自主防災会を自主的に住民がサポートする組織が形成、活動の経費が確保、自主防災会の弱点を補うしくみと資金運営の検討

「住民の災害意識」：13 地区(54.2%)

- ・工夫) 「避難訓練だけでなく共に考え合うような場面を想定し意識の高揚を図る企画」

「住民の自助力を高めるための活動」：9 地区(37.5%)

- ・工夫) 「年数回、回覧」を回し、自分の命は自分で守る大切さを啓発していく

「住民の共助を高めるための活動」：9 地区(37.5%)

- ・工夫) 「防災訓練に住民が参加しやすくする」

「防災訓練を1回でも継続維持する」

「公助の共助を高めるための活動」：9 地区(37.5%)

- ・工夫) 有事と非有事に分けて考える

「有事の時は、行政も来ないと考える」

「非有事」は、「特にハード面の整備を行政に要望していく取組み」

「市の防災対策と連携して、防災訓練を実施している」

「近所のコミュニケーション」：7 地区(29.2%)

- ・工夫) 「祭り」や「地域行事」を行い、コミュニケーションを図っている。

「活動内容」：7 地区(29.2%)

- ・工夫) 「町内が低いため、高台への避難、その後の避難所の開設と運営」

「市-校区主催の訓練、講座の積極的参加、町独自での訓練、講座の企画、実施」

「資金不足」：6 地区

- ・工夫) 「緊急時の資金として、年間貯蓄している」

「活動予算範囲内で行動している」

「活動拠点」：3 地区(12.5%)

- ・工夫) 地域の自治会公民館や社務所を活用しており、不自由はない。

課題) 非有事はよいが、実際に災害が起こった時、活動拠点が安全かどうか、危険の場合、その確保が難しい。

4-4. 自主防災会の活性化を促進する要因 ー自由記述にみる組織の強みからー

(1) 自主防災会を活性化する要因

自主防災会を活性化する要因を探るため、組織の強みの自由記述から自主防災会の活性化を促進する連関図を作成した。その結果、「規模」「新しい知識」「交流」「訓練の継続」「組織のしくみ」が自主防災会を活性化と関連している事がわかった(表 4-3・図 4-2)。

《規模》・・・「地区が小さく限定」、「小さな部落で住民の転入がほとんどない」等の「小さ規模」により、「誰もが顔なじみ」、「各家庭の状況が把握」、「災害時の安否確認ができる」、「話しやすい」関係作りにつながっている。

《新しい知識》・・・「学習の機会を得る」ことにより、災害の専門的知識を身に付け、災害への認識を高めることで活動の動機づけにつながっている。

《交流》・・・「町内の行事に参加していること」により、「多くの人が防災訓練に参加する」ことにつながっている。

《訓練の継続》・・・「避難訓練を持続していること」により、経験者が増えている

《組織のしくみ》・・・「自主的に参加している人だけで活動できること」により、「継続的に活動しやすい」結果になっている。

表 4-3 自主防災会の活性化を促進する要因

大項目	中項目	小項目
規模	自主防災会を組織の規模	地区が小さくてまとまりやすい。
		自主防災活動は、地域が限定している。
新しい知識	新しい知識の獲得	学習の機会を得ている
交流	顔なじみの関係(関係性・コミュニティの形成)	小さな部落で住民の転入がほとんどない。
		昔から近所の付き合いがある
		町内の行事で行動を共にしている
		災害時の安否確認ができる
		情報交換がスムーズ
		細かな対応ができる
訓練の継続	訓練の継続性 (リーダーの存在・住民の意識)	避難訓練を継続維持している
		防災活動には多くの人が参加
しくみ	自主的に参加しやすいしくみ	自主的に参加している人だけで活動しているので、継続的に活動しやすい

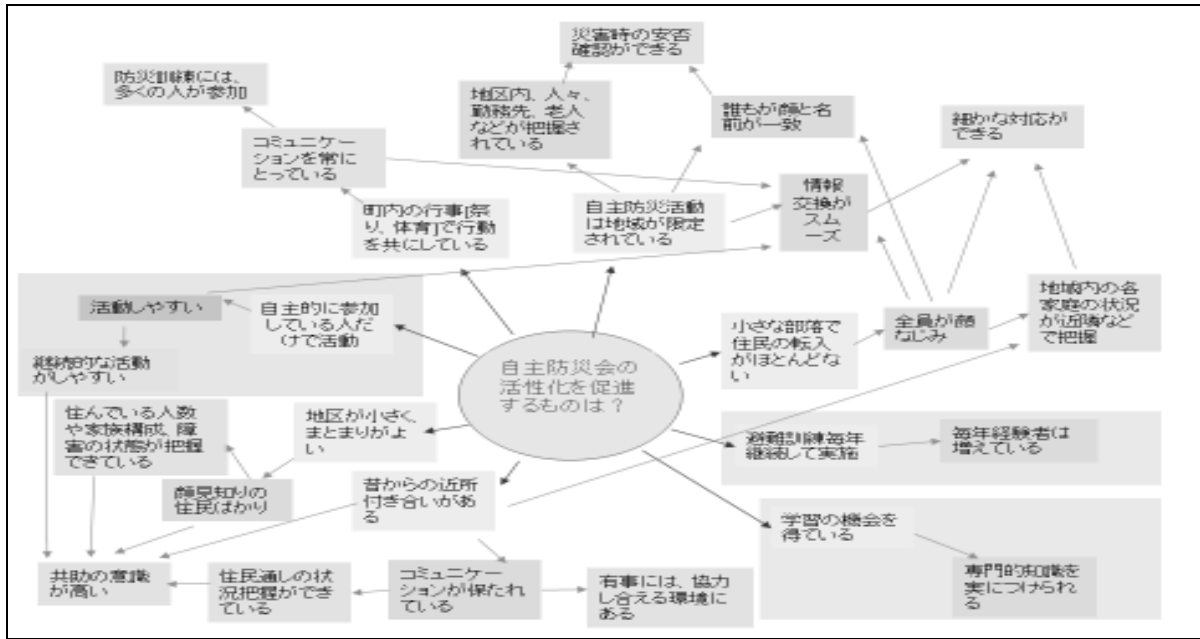


図 4-2 自由記述からみた自主防災会の活性化を促進する要因

4-5. 自主防災会の活性化を阻害する要因 -各課題と弱みの自由記述から-

主に、先述した自主防災会の半数以上が課題とする「リーダーの人材不足」、「防災組織活動の役割」、「住民の災害意識」、「若者の参加率」、「近所のコミュニケーション」の要因を整理する。

自主防災会の課題を取り巻く要因

「リーダーの人材」・「若者の参加率」

リーダーの人材不足は、「自治会長などの兼務」が要因となり、「日ごろの不在が多い」、「任期が短い」等の現況にあった。また、「自発的組織ではない」ことから、「自主防災活動の意識が低い」。その結果、「しっかりした対策がとれない」ことで、「若者の参加率の低さ」を助長していた。山間地域では、「住民の高齢化」が要因となって、「一人暮らしの世帯」の増加により、「相互の助け合いに頼る側が多い」のが現況にあった(図 4-3)。

「防災組織活動の役割」

防災組織活動の役割が十分果たせないのは、「予算が少ない」ことが要因で「現在の予算でできる行動が限られている」ことから「多くの課題を解決できない。」、また、「ボランティア意識をもった人々は少ない」ことが要因となり、「現実的な役割を担う人がいない」、「防災活動、非常時の応急活動に支障をきたす可能性がある」等の現況にあった(図 4-3)。

「住民の災害意識」

「過去において大きな災害がなかった」が要因となって、「他人事と意識が否めない」、「訓練の参加率が極めて低い」、「認識不足」である。したがって、「意識の高揚が必要」を感じていた(図 4-3)。

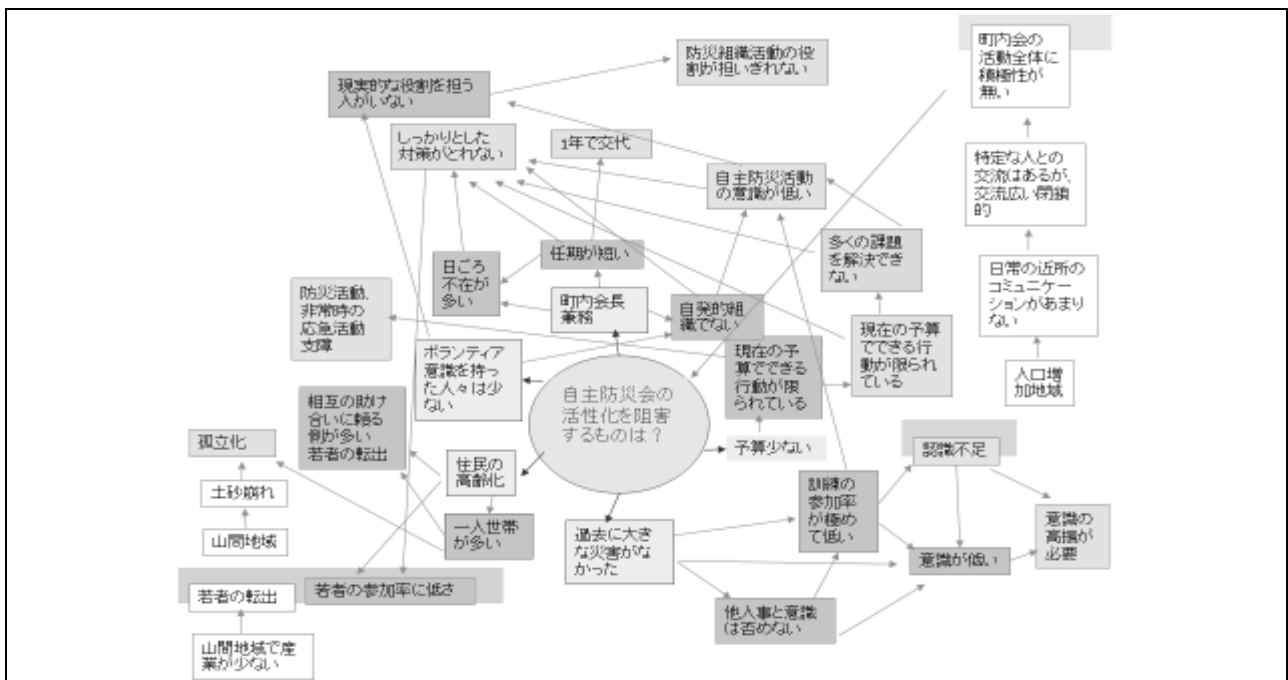


図 4-3 自由記述から見た自主防災会の活性化を阻害する要因

4-6. 自主防災組織の課題のまとめ

- 1) 自主防災組織の主な課題は、自主防災組織の課題は、「リーダー人材」16 地区(66.7%)「防災組織の役割」15 地区(62.5%)、「若年層の参加率」・「住民の災害意識」13 地区(54.2%)であった。「近所のコミュニケーション」7 地区(29.2%)、山間地域は課題に挙がっていなかった。
- 2) 「総合活性度」が最も低い自主防災会は、「防災訓練を1回のみ実施」しており、7 地区のうち6 地区が、山間地域で過疎地域であった。7 地区とも課題の認識数が少なかった。1 地区は、人口増加型の地区で、地域コミュニティ力の低下が予想される賃貸住宅の多い地域で「住民の災害意識」に課題があった。
- 3) 「総合活性度」が最も低い自主防災会は、課題の認識が高い地区と低い地区があった。課題の認識の低い地区は、頻回に「意見交換」や「勉強会」を実施しており、「リーダー人材」、「住民災害意識」を課題としていなかった。3 地区のアンケートから、自主防災会の活性化を促進する要因は、「自主防災会を支える住民参加型の仕組み」、「女性リーダーの取り込み」が関与していることがわかった。自主防災会の活性化を阻害する要因は、高齢化によるマンパワー不足であった。
- 4) 自主防災会の活性化を阻害する要因は、「自治会長などの兼務」、「任期が短い」など、防災リーダー人材が育ちにくい状況や「自主防災会が法的にできることが限られている」、「自発的組織ではない」、「現在の予算でできる行動が限られている」等が考えられた。

第5章 災害イメージトレーニングの実践方法と効果

第5章 災害イメージトレーニングの実践方法と効果

5-1. 災害イメージトレーニングに関連する文献資料

3章から4章でわかったのは、地域の特性に応じて、「住民が災害を我が事として考えること」動機付けを住民一人ひとりの災害に対する意識の向上に向けた啓発活動のための新しい取り組みが必要といえた。そこで、住民の災害意識の高揚を図るための方法について文献検索を行ない、以下の文献資料を参考にした。

災害イメージトレーニングに関連する文献

①公益法人市民防災研究所による「災害イメージトレーニング（地震編）」

「災害イメージ・トレーニング（地震編）」では、地震が起きたという想定のもとに、地震発生からの時間軸に沿って、地震直後、3分後、30分後、地震当日、翌日から3日目までと各フェーズにおいて、その時「何が起きるか」「どんな問題が生じるか」を考え、個人や地域で「何ができるか」「事前の備えは何が必要か」を考えてもらうものである。

期待される効果としては、以下のようなことが挙げられていた。

災害イメージトレーニングを実施することにより、災害時の自主防災組織が取り組むべき活動のイメージができる。

日常における防災への取り組みを具体的に考えるきっかけづくりとなる。

研修時間：120～150分程度としている。

②カードゲーム「クロスロード」・ 災害図上訓練「DIG」

「災害をイメージし、想像することが、「防災の第一歩」であると考えられた防災行動につながる方法として、心理学の面から防災に取り組む吉川肇子氏により制作されたカードゲーム「クロスロード」や防災・危機管理一般に広く携わる小村隆史氏らが制作したものの災害図上訓練「DIG」などがある。

カードゲーム「クロスロード」は、過去の災害で問題となったことを自分たちで考えるためのものである。小村氏は、「リスクが見えれば、なすべきことも見えてくる」と言っており、災害をイメージすることの重要性を指摘している。

③自主防災組織災害対応訓練「イメージTEN」

静岡市の危機管理部危機情報課で制作された、災害イメージを向上させるためのものである。

災害時に、自主防災組織がどのように対応したらいいかを具体的に考えるイメージトレーニングのことで、Image（想像）Training（訓練）&Exercise（演習）ofNeighborhood（隣近所）が「TEN」の由来である。参加者が自主防災組織本部の様子を時系列で疑似体験でき、具体的で実践的な防災対策や災害対応が理解できる。

以上を参考にして、災害イメージトレーニングの効果を検討するため、取り組み活動度と総合取組活動活性化が高い「吉川町」で実践した。

5-2. 災害イメージトレーニングの実践事例

目的：災害イメージトレーニングの効果を知るため、どのような方法が良いかを探るため

【事例1】

目的：災害イメージトレーニングの効果を知るため、どのような方法が良いかを探るため

【事例1】

対象地区：吉川町 日時：平成29年12月16日(土)

時間：9時45分～10時30分 場所：吉川神明社

参加人数：約50人

テーマ：女性の視点からの災害イメージトレーニング

災害想定：季節 曜日 時間を設定(表5-1)

方法：グループは10グループ テーマから男女別のグループを設定 くじで災害を設定してもよい

流れ：地域を知る。(町内の人口構成・昼間人口・予想される揺れなどの理解)→災害イメージトレーニングのねらい→説明→個人ワーク・グループワークを発生から避難するまで、不安や困ること→どんな配慮や対策が必要かを考える→意見交換→発表

■災害イメージトレーニングの狙い

「災害想定し何が起きるか、何をするか、などを考え、自分の日常生活時間と災害が結びつく具体的なイメージへとつなげてみて、自助や共助の意識を高める。

■タイムスケジュール

10分	地域を知る ① 地勢について ② 吉川町の昼夜間の 年齢別人口構成の推測 グループ内挨拶
10分	災害イメージトレーニング説明
5分	想定災害 【始め】
10分	個人でイメージする
10分	意見だし
10分	意見交換
5分	発表

■事前準備

- ・準備するもの

- | |
|--------------------|
| ○付箋 |
| ○参加者用・筆記用具・マジック |
| ○地震条件を決めるくじ(場合による) |

■事前に行っておく事は、以下のとおりである。

1. 災害想定を作成

災害想定は、以下の①～③を組み合わせ、災害パターンを決めておく。具体的に災害想定(資料1)を予め決めておく。イメージの拡散を防ぐため、災害が来ては困る時間帯を想定するとよい。

季節	:	春	夏	秋	冬
① 発生時間	:	早朝	日中	夕方	深夜
② 曜日	:	土曜・日曜日	平日		
例) ①は、夏・冬、②は、早朝・日中、③は、平日・休日					

資料1 災害想定

項目	条件	条件
季節	真冬(12月～2月)	真夏(7～8月)
時間	深夜・熟睡時間(0時から3時)	日中(15時)
曜日	平日	休日

2. くじ引きの作成

ゲーム演出をして雰囲気盛り上げて実施する場合、「おみくじ災害」(災害パターンに番号をつけておみくじのようにする:写真1)を作成してもよい。

3. グループ分け

グループ分けは、日ごろから関わる隣近所でグループを作る。

グループ番号と災害パターンの番号を(資料2)のように設定しておく。

- ・人数は、意見を述べやすい人数とする。

[写真1]

(資料2) 災害想定グループ分け

番号	1	3	5	7	9
季節	冬2月	真夏8月	冬2月	真夏8月	冬2月
時間	深夜 午前2時	深夜 午前2時	昼間 午後3時	昼間 午後3時	昼間 午後3時
曜日	平日	平日	平日	平日	日曜日
	男性1 女性1	男性2 女性2	男性3 女性3	男性4 女性4	男性5 女性5



4. グループワークの前に伝える事

- ・各自が自由に意見を言えるように、他の意見を否定しないように伝える。

〔写真2〕 吉川町 災害がイメージトレーニングをしているところ



結果 1

参加者は、54名(男性30名,女性24名)であった。参加者にアンケート調査を実施した。回収は42名(77.8%)であった。年代は、30代3名、40代12名、50代10名、60代8名、60代8名、70代8名であった。災害イメージトレーニングは、「参考になった」が39名(92.9%)であり、「まあまあ参考になった」3名(7.1%)であった(結果は巻末の付録)。

33名が自由記述を書いており、「小さな子どもを3人連れて深夜避難するのは大変」等、「災害イメージトレーニングからある事象をイメージすることができていた」のは、33名、「持病があるので薬が必要」等、「災害イメージトレーニングから課題に対する行動をイメージできていた」のは6名「出た意見をよく読んで知って次回の防災計画に生かしたい」等、「災害イメージトレーニングから、とるべき対応及課題をイメージできていた」のは14名であった(付録7 表5参照)。

以上から、災害イメージトレーニングの具体的な災害想定からイメージをすることだけでなく、対応策や課題意識が芽生え、効果があったといえる。

表 5-1 災害イメージトレーニングの実施反応

参考になった	少し参考になった	どちらともいえない	あまり参考にならなかった	参考になかった
39(92.9%)	3(7.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)

災害をくじで、想定するなどゲーム性があり、楽しくできた。男女別のチームに分かれ、言いやすい雰囲気でき意見交換できた。はじめは、付箋に自分意見を記入するのに、抵抗を示す人はいなかったが、一つの付箋にたくさんの意見を記入していたため、説明を加えた。

「災害のリスクは、災害の大きさだけでなく、季節、曜日、時間によっても相違があること、女性は、「トイレ」、「着替え」、「子ども」、「ペット」、男性は「情報」、「家族」、「仕事」のことなど、特に男性は沢山の役割を地域のこと以外に担っていた。

最後は時間が少なくなったため、数グループに発表をしてもらうのもよかった。

今回はじめて、イメージトレーニングを行い、イメージがしにくい人もいた。逆にあらゆることが出てくると、制約時間の中で、まとまりにくい。

そのため、「食」・「排泄」・「睡眠」・「情報」ポイントを絞って絞ると、具体的にイメージしやすいのではないかと考えた。再度、大学近隣で協力の得られた「牛川町」で「食」にテーマを絞り災害イメージトレーニングを行なうこととした。

資料 1 東愛知新聞 11 月 28 日掲載

【事例2】

対象地区：牛川町

日時：平成30年1月20日(土) 15:00～16:00

場所：牛川校区市民館

アンケート対象者：牛川校区6町内の防災委員、防災士などと牛川小学校教頭と校長 19名（女性2名）

アンケート回収率：74%（回答者14名 無回答5名）

テーマ：食事の災害イメージトレーニング

災害想定：季節 曜日 時間を設定

方法：3グループ 災害想定をA：（真夏 平日 休日 深夜 昼間）

B：（真冬 平日 休日 深夜 昼間）とした。

流れ：ガイダンス後、災害をくじで設定→発災から数時間、数時間から数日として、何が起こるか、何に困るか、何をすべきかについて付箋に記入→グループで意見交換→発表

結果2

「食」というテーマでイメージトレーニングをしたが、季節の違いによって、食中毒の問題、「暖かいものがほしい」「夏場の脱水への懸念」など、具体的にイメージできていた。

「テーマ」を絞ると創造の領域が限定されるため、話し合いがしやすかった。人数も6人程度で意見が出しやすかった。付箋には、一つにひとつのことを記載できたので、まとめやすかった。

方法は、対象者の年齢や人材などにより、工夫が必要であるが、基本的には意識の高揚につながった。

5-3. 自主防災会の課題に対する災害イメージトレーニングの効果

吉川町と牛川町の参加者の感想から、自主防災会の課題に対する災害イメージトレーニングの効果について、整理する。

第2章24地区の自主防災会の特性「内部との活動の取り組み」からは「実際の災害を想定して防災活動をしている」が66.7%と最も高く、次いで「住民の共助の意識を高めるための活動をしている」が58.3%と共助意識は、防災活動の大事な要素になっていることがわかった。

①吉川町の「取り組み活動度」や「総合活性度」が高いが、「なかなか住民の災害意識の向上を図ることが困難である」という課題は、自主防災の活動が共助意識と結びつかねば、地域の防災へとつながらないといえる。

そこで、「災害イメージトレーニング」を実践した結果、吉川町の自由記述には「時間、曜日、季節によって対策は異なる。具体的に考えていなかった」など、発災の具体的な想定から、環境対応の大事さ、個人の持つ不安の共有、そして近所づきあいの重要性を見出していた。

②牛川校区の自由記述では、「自分の知識不足」、「思っていたことが役立たない」と自助だけでは、成立しないことに気づくことができ、「災害イメージトレーニング」による行動訓練が住み慣れた地域で欠けているものを明らかにしていた。

共助(地域での対応)については「自助以上に思いつかず、難しかった」とあり、自主防災の柱となる共助の意識を高める活動とは何かが問われていることが明らかになった。

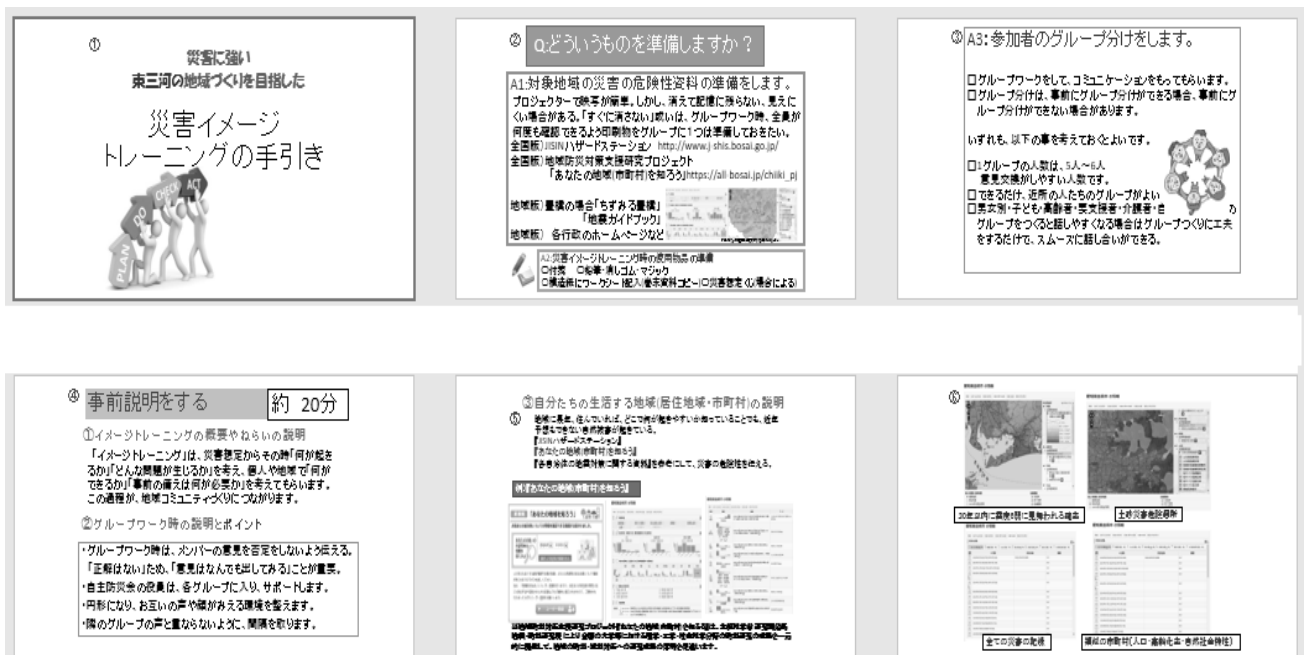
24 地区の自主防災会の課題のトップに挙げられたものは、「リーダーの人材」であり「防災組織活動の役割」であったが、「リーダーの人材」、「防災組織活動の役割」が課題に挙げられた要因には、参加する住民の意識を調和させることの難しさがあるといえる。

次に、「災害イメージトレーニング」を2地区で実施し、効果について整理した。

- ① 災害イメージトレーニングは、具体的に災害を‘我が事’として取り組んでいた。《我が事》
- ② 地域の災害の危険性に応じて対応策を考える機会になった。《地域密着性》
- ③ 他の人の意見を聞いて、みんなで力を合わせた対応の必要性に気が付く機会となった。《協働性》
- ④ 具体的に災害想定をしたことで限られた時間内で具体的にイメージすることができた。《即応性》
- ⑤ 避難訓練に出向けない要支援者や高齢者が参加できる防災トレーニングである。《多様性》
- ⑥ 資金がなくてもできる。《簡便性》
- ⑦ 住民一人ひとりの意見が一つひとつ紙面として残り次の課題や対策を話し合いやすい。《再現性》

以上から災害イメージトレーニングは、これまでの避難訓練や消火訓練や炊き出しとは、異なる新しい切り口の防災訓練活動といえる。ただ、災害イメージトレーニングを進めていく際、ファシリテーター(リーダー人材)が必要であるが様々な地域があるため、行政等と連携しながら実施する際のパンフレットを作成した。(資料2)

(資料2)「災害イメージトレーニング手引き」(案)の一部



5-4. 災害イメージトレーニングのワークシート作成までのプロセス

5-4 では、災害イメージトレーニングの作成のプロセスを記す。

はじめに、参考にした資料は、「公益社団法人 市民防災研究所」のホームページで紹介されている「災害イメージとレーニング」のワークシート(表 5-2)である。

「公益社団法人 市民防災研究所」の災害イメージトレーニングのワークシートに対して、委託研究メンバーと吉川町の自主防災会、サポーターズクラブ吉川のメンバー、NPO 法人リスクマネジメント研究会のメンバーと意見交換をした。

その結果、以下の意見があった。

- ・発災直後 3 分、30 分～当日、のほうがイメージしやすいが、当日や 3 日後がイメージしにくい可能性がある。
- ・「何をすべきか？」と「何が必要？」は意味が類似しているため一緒にしてはどうか。
- ・具体的に、「季節・時間・曜日」を記入できるほうが、イメージしやすい。
- ・そのとき、「あなたは？」を具体的に対象者が選択できるようにしてはどうか。
- ・たとえば、子ども、高齢者など、誰でもが参加できることを示してはどうか？

以上を踏まえて、【ワークシート案 1】を作成した結果、「文字がたくさんあり、みにくい」との意見があり、【ワークシート案 2】を作成した。

次に、実際に 2 地区で使用した結果、地域の災害の特性の違いから、経過時間に応じて使用することが可能な【ワークシート案 3】を作成した。

表 5-2 「公益社団法人 市民防災研究所」による災害イメージトレーニングワークシート

時間経過	何が起きる 〔被害・問題など〕	何をする？ 何をすべき？	何が必要？ 事前対策は？
地震発生から 3 分			
地震発生後 3 分～30 分			
地震発生後 30 分～当日			
地震発生後当日～3 日後			

(公益社団法人 市民防災研究所) のホームページより)

《ワークシート案1》

■あなたのグループの災害設定番号は？ 【 】 グループ
 季節は、〈 〉で、〈 〉月 、曜日は、〈 〉〈 〉に、時間は、
 〈 〉〈 〉時で災害を設定します。

地震！そのとき 自主防災会のメンバーは？

あなたは？ 地域は？ 女性は？ 男性は？ 子どもは？ 要支援者は？

	どんなことが困るかな？ どんなことが不安かな？	何ができる？〔誰が〕 どんな配慮が必要？〔誰が〕 そのためには、どんなことが必要？〔誰が〕
発災～避難するまで		
避難してから		

《ワークシート案2》

■グループの災害設定番号 【 】グループ名《 》

■発災想定

季節は、〈 〉で、〈 〉月 、曜日は、〈 〉の〈 〉に、時間は、〈 〉の〈 〉時に
災害が発生したと想定します。

	どのようなことに困るか？ どのような不安を感じるか？	何ができる？〔誰が〕 どんな配慮が必要？〔誰が〕 そのためどんなことが必要？〔誰が〕
発災～避難するまで		
避難してから		

《ワークシート案3》

条件を選択して災害を想定してください。

1. 今回の想定震度は、【①震度6弱 ②震度6弱 ③震度7】
南海トラフ巨大地震の震度予測
2. 揺れの時間は、【①60秒 ②120秒 ③180秒】
3. 曜日【①平日 ②休日】季節【①夏 ②冬】時間帯【①夜間 ②昼間】
4. 発災時にいる場所【①自宅 ②勤務場所・学校 ③旅行など ④その他】

	その時、どんな事が 予測されるか？	その時の対応は？	どんな事前準備が必要か？
発災時してから ① 1時間以内 ② 2時間以内 ③ 3時間以内 ④ それ以降			
1日～1週間内			

第6章 総括

第6章 総括

6-1. 報告の総括と提言

各章の調査および考察の結果から、東三河自主防災会の活性化（実質的・継続性）における課題と方向性を以下に整理した。

(1) 「総合活性度」からみた東三河自主防災会の実質的・持続性

自主防災会の活動の活発度を「防災活動の回数」と「取組み内容」を点数化して「総合活性度」と表した結果、1点から26点と大きな格差があった。この格差は、地域防災体制のばらつきともいえ、地域防災の課題といえる。

「総合活性度」は、「② さまざまな分野の地域住民や事業所と連携した防災活動をしている」との間に、統計学的に有意に高い正の相関が認められたことから、地域を超えた自主防災活動が必要であることが示唆された。今後も、自主防災組織を定量的に評価し、アセスメントを行い、対応計画が必要である。

(2) 地域の特性に応じた災害イメージトレーニング方法

今回、研究の目的は自主防災会活動の活性化の為に自主防災会活動マニュアルであったが、地域の環境が異なるため、共通のマニュアルでは一般化してしまい、一般化されたマニュアルを作成しても、「我が事」として考えにくいと考えた。そのために、各自主防災会が自治体の環境にあったマニュアルを作成することが望ましいと考えた。

今回「災害イメージトレーニング」という手法を取り入れた。具体的に災害を「我が事」として考えられ、地域に根差した対応（密着性）、みんなで力を合わせた対応（協働性）の必要性を限られた時間内にイメージできる方法（即応性）は、「住民の災害意識の向上」にも役立つものといえる。

6-2. 今後の研究の課題

今回の研究結果が完成されたものではなく、完成されたものを目指していくために地域のありようが問われている。少子高齢化等の社会環境の変化、細分化社会も進化の中で、防災を主軸とし災害に向けて意識を強化していく必要がある。まずは、その地域に暮らす人々が、災害イメージトレーニングを行ない、「自助力」「共助力」を高めて具体的に考えたことを活かすしくみづくりが必要である。

地域とのつながりがあってこそ成り立つ地域防災は、すでに福祉関係の施設の一部では、日常から地域住民とつながりをもって連携をしている事例がある。今後は、様々な地域の住民や事業所と連携すること、自主防災会を取り巻く地域の企業や学校や商店等で働いている人々と一緒に防災訓練を連携して行うことが必要である。

参考文献
資料
謝辭

参考文献 一覧

- 1) 自主防災組織等の充実強化方策に関する検討会報告書 2017.3 自主防災組織等の充実強化方策に関する検討会
- 2) 自主防災組織の手引— コミュニティと安心・安全なまちづくり-2017.3 消防庁
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%> (最終閲覧日平成 29 年 11 月 1 日)
- 3) 愛知県: あいちの人口 平成 27 年国勢調査 —人口等基本集計結果—平成 27 年 10 月 1 日現在
<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/toukei/kokuchou2015.html> (閲覧日平成 29 年 11 月 1 日)
- 4) 財団法人市民防災研究所 : <http://www.sbk.or.jp/blog/?p=464> (閲覧日平成 29 年 11 月 10 日)
- 5) 地域振興課 : <http://www.pref.aichi.jp/chiiki/shichosondata1> (閲覧日平成 29 年 11 月 10 日)
- 6) 統計局ホームページ/平成 27 年国勢調査/調査の結果 - 総務省統計局 www.stat.go.jp ›
統計データ 平成 27 年国勢調査特集 (最終閲覧日 平成 30 年 2 月 10 日)
- 7) 想像力を高めて「もしも」に備える! 災害をイメージし、防災につながる行動へ【コンテンツ編】内閣府
http://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/h20/11/special_01.html (閲覧日平成 30 年 2 月 7 日)
- 8) 自主防災組織災害対応訓練「イメージ TEN」平成 27 年 9 月 30 日
<http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/chosa/image10.html> (閲覧日平成 29 年 11 月 1 日)
- 9) 平成 28 年版 防災白書 | 特集 第 1 章 少子高齢化時代における防災
<http://www.cao.go.jp/index.html> (閲覧日 平成 30 年 2 月 7 日)
- 10) 「自助・共助・公助のあり方」に関する提言 <http://www.city.osaka.lg.jp/cmsfiles/contents/0000011/11795/07shiryuu2-3.pdf#search> (閲覧日平成 30 年 2 月 7 日)
- 11) 地域防災対策支援研究プロジェクト, 文部科学省研究開発局地震・防災研究課,
https://all-bosai.jp/chiiki_pj/ (閲覧日 平成 30 年 2 月 17 日)
- 12) こころのかけはし自然災害対策チーム <http://shizentohito.blog.fc2.com/blog-entry-3.html> (閲覧日 平成 30 年 2 月 7 日)
- 13) 佐藤 健, 塩田哲生, 増田 聡, 村山良之, 柴山明寛, 源栄正人: コミュニティ防災計画支援のための地域防災力評価手法とその仙台市への適用, 自然災害科学, Vol. 27, No. 4, pp. 387-399, 2009.
- 14) 佐藤 健, 桜井 愛子, 小田 隆史, 村山 良之: コミュニティレベルの防災活動の日米比較-米国緊急事態対応チーム CERT と仙台市地域防災リーダー-SBL を事例に-地域安全学会論文集 No. 29, pp239-246. 2016.
- 15) 森下, 義亜: コミュニティ論からみた地域社会参加の構造的課題 : 札幌市の事例から
北海道大学大学院文学研究科研究論集第 12 号,
- 16) 東日本大震災における自主防災組織の活動事例集 http://www.fdma.go.jp/html/life/jireisyu/jireisyu_all.pdf (最終閲覧日: 平成 30 年 2 月 7 日)
- 17) 平成 28 年熊本地震における地域防災活動状況等アンケート調査結果報告書, 平成 28 年 9 月熊本市政策局 (閲覧日: 平成 30 年 2 月 7 日)
- 18) 活動ない地域も 「キーパーソン育成重要」 専門家指摘
<https://mainichi.jp/articles/20170415/dd1/k35/040/359000c> (最終閲覧日: 平成 30 年 2 月 10 日)
- 19) 自主防災会本部総会開く! (熊本地震の時、あなたは行動に移せましたか?)
<http://www.tsunasaga.jp/nishiyoka/2016/06/post-151.html> (閲覧日: 平成 30 年 2 月 10 日)

付録1 アンケート協力依頼文(1)

平成 年 月 日

〇〇自主防災組織代表者 様

「東三河地域における自主防災組織の活性化に関する研究
—自主防災活動の実態調査（依頼）—

拝啓 盛夏の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

私達、豊橋創造大学短期大学部 専攻科福祉専攻 介護福祉研究室では、東三河地域防災協議会の委託研究事業として、東三河地区の自主防災会の課題・取組み状況などの実態調査を調査しております。

本調査は、無記名であり、ご記入頂きました内容は研究目的以外では使用いたしません。

この調査に同意された方は、ご回答ください。回答の返信をもって調査研究に同意していただいとみなさせていただきます。

アンケートは、約20分程度でご回答いただける内容となっております。

ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、本調査の趣旨をご理解の上、何卒ご協力お願い申し上げます。

敬具

記

□依頼内容：「自主防災活動の現状と課題に関するアンケート」の記入と返送

返送については、 月 日()までに、同封の返信用封筒にてご返送賜りますようお願い申し上げます。ご不明な点等がございましたら、お問い合わせいただきます様よろしくようお願い申し上げます。

以上

東三河地域防災協議会委託研究事業グループ
豊橋創造大学短期大学部 専攻科福祉専攻

付録 1 アンケート協力依頼文(2)

平成 年 月 日

吉川町防災会連絡協議会 代表者 様

「東三河における自主防災組織の実質化と継続性に関する調査のご依頼」

拝啓 向夏の候、貴自主防災組織で活動されている皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

昨年度は、東三河自主防災組織活動実態調査アンケートに、ご協力いただき誠にありがとうございました。

私達、豊橋創造大学短期大学部 専攻科福祉専攻 介護福祉研究室では、東三河地域防災協議会の委託研究事業を本年度も引き続き、東三河地区の自主防災会の課題・取組み状況などの実態調査を調査しております。

東三河地区の自主防災会の課題として、「リーダー人材不足」「若者の参加率の低さ」「任期が短期間」などマンパワーの課題など課題が山積している実状にあることもアンケートからわかってきました。

貴自治体の吉川地区の自主防災組織は、昨年度実施した 24 地区の自主防災組織の中で、活発に活動しており、その背景を詳しく伺いたく調査をご依頼申し上げます。

つきましては、【ご依頼内容】について、ご覧いただき、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

本研究の趣旨をご理解頂き、ご協力していただけますよう、お忙しいところ大変恐縮ではございますが、何卒よろしく願い申し上げます。

【ご依頼内容】

- ・ご協力いただける場合は、 月 日までにご送付をお願い申し上げます。
- ・アンケートの質問にご回答をお願いします。
- ・調査協力返信用紙に調査協力の承諾の諾否のチェックをしてください。
- ・調査協力返信用紙には、さらに詳しい事を伺いたい場合のご連絡先をご記入ください。
個人情報等につきましては、目的以外は使用しません。
- ・ご協力いただけない場合は、 月 日までにご送付をお願い申し上げます

東三河地域防災協議会委託研究事業グループ
豊橋創造大学短期大学部 専攻科福祉専攻

付録1 アンケート協力依頼文(3)

平成 年 月 日

東三河地域自主防災協議会

大平区 自主防災会 代表者 様

「東三河における自主防災組織の実質化と継続性に関する調査のご依頼」

拝啓 向夏の候、貴自主防災組織で活動されている皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

昨年度は、東三河自主防災組織活動実態調査アンケートに、ご協力いただき誠にありがとうございました。

私達、豊橋創造大学短期大学部 専攻科福祉専攻 介護福祉研究室では、東三河地域防災協議会の委託研究事業を本年度も引き続き、東三河地区の自主防災会の課題・取組み状況などの実態調査を調査しております。

東三河地区の自主防災会の課題として、「リーダー人材不足」「若者の参加率の低さ」「任期が短期間」などマンパワーの課題など課題が山積している実状にあることもアンケートからわかりました。山間地域においては、過疎化、若者の減少、高齢化が加速され、災害時に自助、共助が成り立ちにくい状況があり、一つの自主防災会組織だけでは解決できない課題が山積している実状にあることがアンケートから知ることができました。

そこで、山間地域の特性による災害時の課題を解決する手がかりを探るため、調査にご協力をして頂きたくご依頼申し上げます。

つきましては、【ご依頼内容】について、ご覧いただき、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

本研究の趣旨をご理解頂き、ご協力していただけますよう、お忙しいところ大変恐縮ではございますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

【ご依頼内容】

- ・ご協力いただける場合は、 月 日までにご送付をお願い申し上げます。
- ・アンケートの質問にご回答をお願いします。
- ・調査協力返信用紙に調査協力の承諾の諾否のチェックをしてください。
- ・調査協力返信用紙には、さらに詳しい事を伺いたい場合のご連絡先をご記入ください。

個人情報等につきましては、目的以外は使用しません。

- ・ご協力いただけない場合は、 月 日までにご送付をお願い申し上げます

東三河地域防災協議会委託研究事業グループ
豊橋創造大学短期大学部 専攻科福祉専攻

付録1 アンケート協力依頼文(4)

平成 年 月 日

東三河地域自主防災協議会

栄町区 自主防災会 代表者 様

「東三河における自主防災組織の実質化と継続性に関する調査のご依頼」

拝啓 向夏の候、貴自主防災組織で活動されている皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

昨年度は、東三河自主防災組織活動実態調査アンケートに、ご協力いただき誠にありがとうございました。

私達、豊橋創造大学短期大学部 専攻科福祉専攻 介護福祉研究室では、東三河地域防災協議会の委託研究事業を本年度も引き続き、東三河地区の自主防災会の課題・取組み状況などの実態調査を調査しております。

東三河地区の自主防災会の課題として、「リーダー人材不足」「若者の参加率の低さ」「任期が短期間」などマンパワーの課題など課題が山積している実状にあることもアンケートからわかりました。山間地域においては、過疎化、若者の減少、高齢者の1人暮らし等、災害時に自助、共助が成り立ちにくい状況があり、一つの自主防災会組織だけでは解決できない課題が山積している実状にあることがアンケートから知ることができました。

栄町地区では、防災のリーダー人材については、これまで男性中心の地域組織に女性スタッフを入れて、地域防災委員会の組織をたち上げ、女性からの視点を加味できるように工夫をしているとの回答がありました。

そこで、今後の自主防災組織の活性化を図る参考にしたいため、栄町地区の考えを詳しくお伺いしたく調査をご依頼申し上げます。

本研究の趣旨をご理解頂き、ご協力していただけますよう、お忙しいところ大変恐縮ではございますが、何卒よろしく願い申し上げます。

【ご依頼内容】

- ・ご協力いただける場合は、 月 日までにご送付をお願い申し上げます。
- ・アンケートの質問にご回答をお願いします。
- ・調査協力返信用紙に調査協力の承諾の諾否のチェックをしてください。
- ・調査協力返信用紙には、さらに詳しい事を伺いたい場合のご連絡先をご記入ください。
個人情報等につきましては、目的以外は使用しません。
- ・ご協力いただけない場合は、 月 日までにご送付をお願い申し上げます

東三河地域防災協議会委託研究事業グループ
豊橋創造大学短期大学部 専攻科福祉専攻

付録1 アンケート協力依頼文(5)

平成 年 月 日

〇〇町自主防災会長 様

「災害イメージトレーニング」実施の ご協力をお願い

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

私達、豊橋創造大学短期大学部 専攻科福祉専攻介護福祉研究室では、東三河地域防災協議会の委託研究事業で、自主防災会組織の活性化を目指して、平成28年度より東三河地域の各自治体の中から3地区、24地区の自主防災会の実態調査を行ってきました。その結果、「住民意識の向上」が難しく、しかし、その取組みが必要だということがわかりました。

今日、マグニチュード8を超える大規模地震発生の可能性がますます高まり、いつ、どこで、発生するかわからない中で、特に海拔の低い地域で生活をしている方々については、津波浸水、液状化現象が想定されており、「自助」「共助」の重要性が増しています。

そこで、「災害の想定をして、何が起きるか・どんな対策があるか」という「災害イメージトレーニング」という手法で貴自主防災会にご協力いただき、この手法をすることで、どのような効果があるかを目的に実施したいと存じます。

御忙しい中誠に恐縮ですが、調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

東三河地域防災協議会委託研究事業グループ
豊橋創造大学短期大学部 専攻科福祉専攻

付録2 アンケート調査用紙(1)

《H28年度自主防災活動の現状と課題に関するアンケート》

1 回答される方についてお答えください（該当項目に○または記入をしてください）

- ① お立場について、記入してください（最も近い立場で結構です）（ ）
- ② 現在の役職に就かれてからの年数・任期（ ）年目 任期（ ）年
- ③ 性別 : a 男性 b 女性
- ④ 年齢 : a 40代 b 50代 c 60代 d 70代 e 80代以上（ 歳代）

2 所属する自主防災活動組織についてお答えください（該当項目に○または記入をしてください）

- ① 組織構成人数（ ）人 ※最大人数、おおよそで結構です
- ② 組織員の男女比 おおよそ（ ）：（ ）
- ③ 組織員の年代： a 20代 b 30代 c 40代 d 50代 e 60代 f 70代 g 80代以上
- ④ 現在は、どのような防災活動を行っていますか
a 防災訓練（ 回/年） b 意見交換会（ 回/年） c 勉強会（ 回/年） d その他（ ）

3 自主防災組織〔自治会〕の防災活動を進めるにあたり、「取り組んでいる、または意識しているもの」に○または記入してください。（いくつでも結構です）

	取り組んでいる、または意識しているもの	該当は○
①	行政と連携した防災活動を進めている	
②	さまざまな分野の地域住民や事業所と連携した防災活動をしている	
③	東三河の他の自治体の地域と交流し防災活動をしている (他の自治体の地域名：)	
④	平常時の活動、災害時に分けて活動している	
⑤	実際の災害を想定して防災活動をしている	
⑥	防災活動の広報活動の手法が工夫している	
⑦	住民が自主防災活動に参加しやすいような取組みをしている	
⑧	住民の災害の危機意識を高める為の活動をしている	
⑨	住民の自助の意識を高める為の活動をしている	
⑩	住民の共助の意識を高める為の活動をしている	
⑪	住民の中の要支援者の支援をするための活動をしている	
⑫	その他（ ）	

※②さまざまな分野の地域住民とは、自治会・民生委員・児童委員・地域防犯協会・老人クラブ
女性団体、学校関係など、事業所とは、ガソリンスタンド、スーパーマーケット、コンビニ、道の駅など

4 自主防災組織または自治会で、活動を継続するにあたり、どのような課題があると思われますか。該当する項目に○をつけてください。（いくつでも結構です）また、工夫をしているところがあれば、お書きください。

	課題 〔工夫していること〕	該当は○
①	リーダーの人材 〔 〕	
②	役員の入替わり 〔 〕	
③	防災組織活動の役割 〔 〕	
④	活動拠点 〔 〕	
⑤	資金不足 〔 〕	
⑥	若年層の参加率 〔 〕	
⑦	日常の近所のコミュニケーション 〔 〕	
⑧	住民の災害意識 〔 〕	
⑨	活動内容 〔 〕	
⑩	自助の心構えや実践力(自助力) 〔 〕	
⑪	家族、近隣の人を頼ること(共助力) 〔 〕	
⑫	行政を頼ること(公助力) 〔 〕	
⑬	その他 〔 〕	

5. あなたの自主防災活動組織の強みや弱みがあったら、どのようなことですか？

強み

弱み

〔何かご意見があれば裏面にお書きください。〕

付録2 アンケート調査用紙(2)

《吉川町地区》

昨年度のアンケート調査の回答者ですか？（はい・いいえ）

【質問1】外部に向けた防災活動に取り組んでいますか、なぜですか？

行政

地域の事業所

他の自治体

【質問2】外部に向けた防災活動に取り組んでいますか、どのように取り組んでいますか？

行政

地域の事業所

他の自治体

【質問3】住民の中の要支援者の支援する活動に取り組んでいますか、どのように

取り組んでいますか？

【質問4】住民が自主防災活動に参加しやすいような取組みをしていますが、

どのように取り組んでいますか？

【質問5】住民の災害の危機意識を高めるための活動をしているとありますが、

どのように取り組んでいますか？

【質問6】若者の参加率が低い要因は、どのように組織内で分析していますか？

【質問7】防災意識の低さは、どのようなことと関連していると思いますか？

ご協力ありがとうございました。

付録2 アンケート調査用紙(3)

《大平地区》

昨年度のアンケート調査の回答者ですか？（はい・いいえ）

【質問1】貴地区は、「高齢者の1人暮らしが多いため、救助活動に困難が生じる」との回答がありました。
高齢者の1人暮らしの人を助けるために、どのようなことが必要と思いますか？

【質問2】貴地区は、「住んでいる人数や家族構成、障害の状態が把握できている」という関係を
どのように生かしていますか？

【質問3】貴地区は、「行政と連携をした防災活動をしている」との回答がありました。
どのような連携をしていますか？具体的に教えてください。

【質問4】貴地区は、「近隣の福祉施設や学校などと連携した活動を実施していない」との回答がありました。近隣の
福祉施設や学校などと連携して防災活動をすることに対してどのようなお考えをおもちですか？

【質問5】貴地区は、「他の地域の自主防災会と防災交流を実施してない」と回答がありました。
他の地域の自主防災会との防災交流についてどのようなお考えをおもちですか？

付録2 アンケート調査用紙(4)

《栄地区》

はじめにお答えください

昨年度のアンケート調査の回答者ですか？(はい・いいえ)

【質問1】「平成28年度から地域防災組織に女性スタッフの参加を畝がしている」と回答がありました。
女性スタッフの参加を必要としたのはどのような理由からですか？具体的にお答えください

【質問2】女性スタッフが参加したことで、変化したことはどんなことですか？

【質問3】現在の女性スタッフの年代をご記入ください。

【質問4】自主防災活動を活性化させるために、チ尾のような点で女性スタッフに期待しますか？

【質問5】防災組織活動の役割について「自主防災組織の活性化をめざし、規約の見直し、避難や避難所の運営に関するマニュアル作りと企画を作成中」との回答がありました。
規約の見直しについては、どこに重点をおいていますか？

【質問6】「共に考え合うような場面を設定して、住民の災害意識の高揚を図る企画」をされていると回答がありました。
度のようなことをされていますか？ 具体的にご記入ください。

【質問7】「災害時、要支援者の避難時や安否確認時に助け合える体制づくりをめざしたい」と回答がありました。具体的にどのような体制をお考えですか？

付録3 アンケート調査結果(1)

《吉川町地区》回答者：昨年と同じ

【質問1】外部に向けた防災活動に取り組んでいます、なぜですか？

行政による専門的知識や研修会、学者の講義等、独自に調達することは、いち自治体では無理であるし、予算がないので、大いに活用したいと考えている。

災害時、地域のデイサービスセンターやコンビニ・スーパー、ガソリンスタンド・農家の温室にある井戸等、社会資源として活用できればと考えています。

隣接する町内と関係を常に連携は大切、情報交換の場も大切である。

【質問2】外部に向けた防災活動に取り組んでいます、どのように取り組んでいますか？

行政が主催する講演会・研修解答には積極的に自治会役員を出すよう心掛けている。

吉川町では事前に町内のデイサービスセンター・コンビニ・スーパー・寺や農家の温室にある井戸・ガソリンスタンドに出向き災害時避難所として開放してもらえるか、店を開放してもらえるか協議した。

特に隣接する町内とは、連携を密にし、たまには共同で訓練する必要がある。点から線そして面に広げて輪を広げていかなくてはならない

また、情報交換の場として、「住みよい暮らしづくり」の委員を大いに活用している。

【質問3】住民の中の要支援者の支援する活動に取り組んでいます、どのように取り組んでいますか？

民生委員が災害時要支援者の実体を把握しているので、サポーターズクラブの会員たちに、民生委員と共に要支援者宅を回り、情報の共有をすべく、年2回実施している。(30人～50人)

災害時、会員を町内で3か所に別れ、安否の確認に行くための訓練です。

【質問4】住民が自主防災活動に参加しやすいような取組みをしています、どのように取り組んでいますか？

サポーターズクラブは、町内の誰でも参加できる(性別、年齢等一切問わない)組織で、活動内容も、会主催の防災訓練と町主催の防災訓練に参加協力はするが、連絡は必ずするが、都合のつくときだけ参加すればいい仕組みになっている。町内の広報、個人的な呼びかけで常時受け付けている。

【質問5】住民の災害の危機意識を高めるための活動をしているとありますが、どのように取り組んでいますか？

町内独自で、防災教育(講座・広報の配布)、年1回は、必ず防災訓練を実施、このことを広報している。

【質問6】若者の参加率が低い要因は、どのように組織内で分析していますか？

ご指摘の通り、若者の参加が低く大きな悩みですが、消防団に加入したり、煙火会や青年団に加入すると、ダメもとで参加を呼び掛けている。

低い要因は、自分の問題として、現実感がなく、まだまだ意識が低いのでは、と思います。

私自身も、10代、20代の頃、地域のこのようなグループにまったく関心がなかった。若者たちが興味を持ってそうな内容と、楽しく参加できることを考えていかないと、解決しないと思います。

【質問7】防災意識の低さは、どのようなことと関連していると思いますか？

例えば避難訓練でも会を重ねるたびに参加者が減少します。身近に大きな災害が起こり、危機感が生じると、参加者が増えるのは事実です。繰り返し、根気よく呼びかけていかなくてはと思います。

付録3 アンケート調査結果(2)

《大平区》回答者:昨年と同じ

【質問1】貴地区は、「高齢者の1人暮らしが多いため、救助活動に困難が生じる」との回答がありました。
高齢者の1人暮らしの人を助けるために、どのようなことが必要と思いますか？

当地区は、55世帯ですが、65歳以上の一世帯が16世帯、65歳以上の夫婦の二世帯が15世帯と65歳以上の世帯が31世帯と56%となっており、高齢者の一人暮らしの人を助けるためには、人員が必要と思います。

【質問2】貴地区は、「住んでいる人数や家族構成、障害の状態が把握できている」という関係をどのように生かしていますか？

当地区は55世帯と小さな地域ですので、隣や近所の家族構成は把握できていますが、有効に生かす活動はしていません。災害時には、ある程度は有効に生かすことができていると思っています。

【質問3】貴地区は、「行政と連携をした防災活動をしている」との回答がありました。
どのような連携をしていますか？具体的に教えてください。

- ・防災訓練を実施している
- ・防災資機材の購入の補助を受けている。
- ・防災マップ等の作成、提供を受けている

【質問4】貴地区は、「近隣の福祉施設や学校などと連携した活動を実施していない」との回答がありました。近隣の福祉施設や学校などと連携して防災活動をすることに対してどのようなお考えをおもちですか？

当地区には保育園と小学校が有りますが、防災活動をできる人員が少なく、隣近所の高齢者の救助さえも困難だと思います。そのような実情で、小さな児童に対して責任ある活動には心配しています。

【質問5】貴地区は、「他の地域の自主防災会と防災交流を実施してない」と回答がありました。
他の地域の自主防災会との防災交流についてどのようなお考えをおもちですか？

防災交流は必要とは思いますが、なかなか実施で来ていません。

付録3 アンケート調査結果(3)

《栄地区》回答者：昨年と同じ

【質問1】「平成28年度から地域防災組織に女性スタッフの参加を促している」と回答がありました。

女性スタッフの参加を必要としたのはどのような理由からですか？具体的にお答えください

- ・男性スタッフでは気がつかない事、女性ならではの視点での発言等していただきたくて

【質問2】女性スタッフが参加したことで、変化したことはどんなことですか？

- ・昨年度の避難訓練時に女性の参加が多くなった。

【質問3】現在の女性スタッフの年代をご記入ください。

- ・40代～60代

【質問4】自主防災活動を活性化させるために、どのような点で女性スタッフに期待しますか？

- ・女性ならではの意見、行動を期待

【質問5】防災組織活動の役割について「自主防災組織の活性化をめざし、規約の見直し、避難や避難所の運営に関するマニュアル作りと企画を作成中」との回答がありました。

規約の見直しについては、どこに重点をおいていますか？

- ・運営委員の追加
- ・住民の高齢化に伴い、その時にマッチしたマニュアル作りをしたい

【質問6】「共に考え合うような場面を設定して、住民の災害意識の高揚を図る企画」をされていると回答がありました。どのようなことをされていますか？ 具体的にご記入ください。

- ・昨年の避難訓練時に参加した住民とワークショップを行い、施設の図面を使い利用計画を話し合った。

【質問7】「災害時、要支援者の避難時や安否確認時に助け合える体制づくりをめざしたい」と回答がありました。

具体的にどのような体制をお考えですか？

- ・近隣の要支援を確認して、誰がどの支援に行くかを確認した。

付録4 吉川町 災害イメージトレーニング資料(1)

(1)自分の地域の災害の危険性を知る。

①吉川町の地震の影響予測を知り、どんな被害が予想されるのか
(吉川町を知る1(災害の予測値))

地震情報 (ゆれやすさ等)
津波による浸水
洪水による被害
地震動による経過確立 身近なリスクとの比較

NPO法人リスクマネジメント研究会より資料提供

4

吉川町
神明社

NPO法人リスクマネジメント研究会より資料提供

5

対象地の幅員は、2.27 mです

NPO法人リスクマネジメント研究会より資料提供

6

ゆれやすさ

対象地は、地震動が激震レベルのゆれやすさです。ゆれやすさのレベルは、ゆれやすさのレベルによって異なります。ゆれやすさのレベルは、ゆれやすさのレベルによって異なります。

NPO法人リスクマネジメント研究会より資料提供

7

地震動の伝達係数

対象地で地震動の伝達係数は、0.75です。

震度	震度	震度
0.7	1.0	1.3

NPO法人リスクマネジメント研究会より資料提供

8

身近なリスクと地震動の経過確率との比較 (参考)

項目	発生確率	被害	備考
地震動(震度1.0)	約10%	建物損傷(軽微)	
地震動(震度1.5)	約1%	建物損傷(軽微)	
地震動(震度2.0)	約0.1%	建物損傷(軽微)	
地震動(震度2.5)	約0.01%	建物損傷(軽微)	
地震動(震度3.0)	約0.001%	建物損傷(軽微)	
地震動(震度3.5)	約0.0001%	建物損傷(軽微)	
地震動(震度4.0)	約0.00001%	建物損傷(軽微)	

(2008年現在)

9

活断層

対象地から活断層までの距離は、約30mです。

NPO法人リスクマネジメント研究会より資料提供

10

津波による浸水深

対象地で津波による浸水深は、約1.5mです。

NPO法人リスクマネジメント研究会より資料提供

11

洪水による浸水深

対象地で洪水による浸水深は、約0.5mです。

NPO法人リスクマネジメント研究会より資料提供

12

(2)人口特性を知る。

②吉川町を知る2

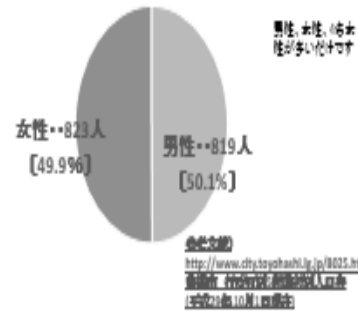
曜日、時間により、
どれだけ吉川町にいるの？

吉川町の
男女別・年齢層別人口構成より推測しよう！！)

1

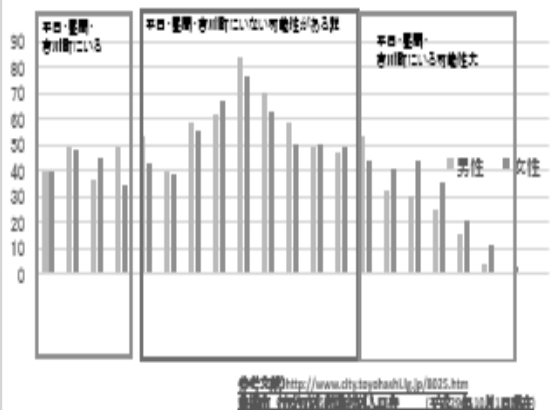
男女別人数(吉川町)

総数 1675人 世帯数657世帯



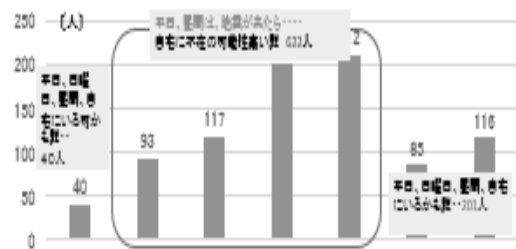
2

あなたは平日・昼間に吉川町にいる？いない？



3

平日・昼間に吉川町にいる可能性がある女性は241人



4

表1 吉川町 5歳階級別人口構成

	5歳階級	男性	女性	総数
0	0-4歳	40	40	80
1	5-9歳	49	48	97
2	10-14歳	37	45	82
3	15-19歳	49	35	84
4	20-24歳	53	43	96
5	25-29歳	40	39	79
6	30-34歳	59	56	115
7	35-39歳	62	67	129
8	40-44歳	84	77	161
9	45-49歳	70	63	133
10	50-54歳	59	50	109
11	55-59歳	49	50	99
12	60-64歳	47	49	96
13	65-69歳	53	44	97
14	70-74歳	32	41	73
15	75-79歳	30	44	74
16	80-84歳	25	36	61
17	85-89歳	16	21	37
18	90-94歳	4	11	15
19	95-99歳	1	3	4
20	100歳以上	0	1	1
		859	863	1722

(3)タイムスケジュール 吉川町

時間	内容	人の動き	業務割り振り
9:00~集合 準備 打ち合わせ	受付の準備 持参するもの 配布物袋 60部 (予備 40部) ・配布資料 アンケートは別に印刷 ・鉛筆 ・付箋 10枚ずつ 男女別 グループくじ 災害想定くじ ※事前に設定の場合は不要 パワーポイント確認 USB 各グループ配布 ・グループ名 用紙 ・グループワーク大判用紙・消しゴム		受付(自主防災会員様) ・グループくじ(男女別) ・袋配布
9:30 ~	・はじめに 吉川町の地震・洪水・津波の予測 人口・世帯数・年齢・男女 個人・グループワークの流れについての説明 開始 △自分で考えて記入する 以下の質問1)2)について、はじめは、自分で付箋に記入する(できたら、3枚以上)	・司会者 補佐決める ・メンバー自己紹介 ・持ち物確認 △司会者は、質問1)を伝え、7分後には様子を見て終了してください	パワーポイント

	<p>・「女性グループ」は、女性の目線で危険と感ずること、不安なこと</p> <p>・「男性グループ」は、『女性はどうなことが危険か、困るか、不安か</p> <p>質問</p> <p>1)発災から避難するまで予想される不安なこと</p> <p>2)避難所で予想される不安なこと</p> <p>▽集団で意見を出して、紙に付箋を貼る。</p> <p>1)の質問項目に対して、司会者は、自身で書いたことをみんなに聞こえるように声に出して、用意した紙の1)の下に貼る。次いで、その時点で、同じ内容だと考えたら、順番に関係なく重ねて貼る。手持ちの付箋がなくなるまでやる。</p> <p>時間切れの場合は、すべて貼る。</p> <p>2)質問項目に対しても、同様とする。</p> <p>▽どうすべきか</p> <p>上記で出された 困りごと、不安なことに対して、番号を付ける。その際、どうしたらいいか、意見を出し合う。</p> <p>▽発表</p> <p>こんな不安が避難所ではあるだろう</p> <p>こんな不安に対して、こんな対策を考えた</p> <p>男性チーム：1グループ</p> <p>女性チーム：1グループ</p> <p>まとめの講座</p>	<p>い。</p> <p>△司会者は、質問2)を伝え、5分後に終了してください。</p> <p>実際、例示したもので説明する</p> <p>記録は、でてきた困りごとに番号を付ける 同じような内容の付箋は、同じと考え、1つの番号を付ける。</p>	
--	---	--	--

付録5 災害イメージトレーニングのワークシート結果 (1)

1. 災害想定:[真冬2月 火曜日 15時]

	発災から避難するまで		避難してから	
	どのようなことに困るか	対策	どのようなことに困るか	対策
女性グループ	会社(市内)(車通勤 15分)スゴとして いるので、子ども(19歳)が、どのような 状態か心配	避難場所へ行く(学校)	寒さ対策	毛布は持ってい く
	自宅の火の元はどうか		寒さ対策	毛布
	火	ガス・ストーブを止める	トイレ	
	逃げ道	まず、近くの戸を開ける	食べ物	
	窓のゆがみで逃げられるか	戸を開け逃げ道を確保		いつも薬を飲ん でいる人は、持 っていく
		戸を開ける		メガネも持って いく
		スリッパをはく		薬手帳を持参
	自宅に入るが、小学生の通学路が近 いので、子ども達が心配	通学路にいる子どもを避 難させる		
	子どもをすぐにむかえに行くか(小学校 4年生)	先生との連絡をする		
	どこへどういけばいいのか		差し入れが、おにぎりやパンだ けでは野菜不足なり、便秘に なりやすい	
	道に混乱はないか		身内の安否確認	
	何をもっていけばいいのか	避難袋を持っていく	もう一度、避難袋をとり家に 帰ることができるか	
		サランラップ、ビニール袋 を持っていく、トイレトペ ーパー、ティッシュ等		
	買い物で、近くの避難所を知らない		トイレ	
家族の安否が不安		風呂		
職場の従業員家族の安否が心配		寒さ		
要支援者を、女性だけで運べるか		食事		
会社にいるので、避難するまで時間が かかる		薬の確保		
会社での役割がある				
町内でも役割がある				

2. 災害想定：〔真冬 2月 火曜日 3時〕

	発災から避難するまで		避難してから	
	どのようなことに困るか	対策	どのようなことに困るか	対策
女性グループ	気付くか不安	起きた人が起こす	どうすればいいのか	
	暗くて見えないので怪我をしないか	暗いので灯りをもっていく	子ども達へのフォロー	
	パニックにならないか		余震	
	防寒など持ち物ももてるか	毛布など、持ち出しができれば持って行く	ごはん	
	ペットどうしよう	パットの食事・水用意をしておく	寒さ	
	安全に避難できるか	近所つきあい みんなに聞く	情報	
	だんなが夜勤	安否確認	だんな安否	
	家の鍵	家の鍵はしっかりかける	どのくらいの人が集まるか	
	避難すべきか判断に困る	外を見る	避難所内の自治	
	夜中だと暗いので、電気が使えるか不安	懐中電灯を用意	町内会別グループ分けがあるか	
	就寝中だと薄着なので、すぐに着替えや上着を用意できるか不安		避難所でどのように過ごしたらよいかわからず不安	
	どのくらいのものを持って出るか判断に困る	寒いので、洋服をしっかりと着る	子ども(小学生2人)をみながら、情報収集できるか不安	
	くつ		防寒対策できるか	布団の確認
	テレビなど情報源があるか不安		食品・食料は十分あるか	
		2日間くらいの水、食べ物を用意	洗面所、口腔内の清潔	
		女性用品も持って出るとよい	着替え・スペース・プライバシーの確保	
	寝室が3階なので、下に降りれるか		携帯充電できるか	
	暗いので、避難場所に行くまでの道が安全かどうか不安		寒いので防寒着が必要	
子どもがたくさんいるので、連れていけるか不安		食べ物、飲み物が必要		

	近所に高齢世帯がいるが、どの家に何人いるかわからない		女性用品がなかったら？	
	避難場所になにをどのくらいもっていけばいいのか、持ち上がる不安		化粧はできるのか？洗面など	
	2階から1階まで行けるか		安否情報は発信・確認できるか	
	暗いので、周りが見えないので不安			トイレの場所(男、女、高齢者等分ける)
	くつと寒いので、服の用意ができるか		体育館どこ座ればよいか	避難所運営の組織づくり
	子ども2人と自分の持ち物の用意、どうすればいいのか？		子ども・高齢者、授乳、オムツ交換をする場所(ミルク、お湯、おしりふき)(介護用品)	
	だんなが夜勤なので不安。		誰がリーダーをとってくれるのか、男性、女性それぞれのリーダーがいてほしい。	
男性グループ	灯りに困る		小学校に入れるか？	
	足元		スペースがあるか	
	寒い		暖房	
	灯りが困る		食料	食料・備蓄・
	足元の不安		ペットは？おつけいか？	避難所のペットの場所
	落下物			
		安否確認 171 携帯		
		懐中電灯		
		スリッパ		
		寝室に防寒着と		

3 災害想定:真冬 2月 日曜日 15時

	発災から避難するまで		避難してから	
	どのようなことに困るか	対策	どのようなことに困るか	対策
男性グループ	家族の所在	伝言板の設置自宅 ()	ペットの扱い	
	遠方において自宅の様子が分からない		避難場所の収容人数	
	冬の寒さが不安	家から、カイロ、服、食料等必要なものを持ってくる	誰がリーダーになるか	役割分担
	外出時の避難場所		体調不良時の医療及び通院	
	連絡方法	NTTの災害伝言ダイヤルで家族の安否確認を事前に行っておく	プライバシー	集団生活のマナーを守る
	身体の不自由な方の避難方法			ルールづくり
			避難場所での伝言版の設置	

4. 災害想定：真夏 8月 火曜日 15時

	発災から避難するまで		避難してから	
	どのようなことに困るか	対策	どのようなことに困るか	対策
女性グループ	職場・学校帰宅困難		衛生面/お風呂	
	家族の安否		暑さ対策	
	避難中の水不足	事前に、水、食料などの準備	紙・オムツ・ミルク	
	家にいるペットが心配		食料/食中毒	
	外出しているため自宅が心配		電気・ガス・水道	
	車で移動中の場合どうすればいい？	車の放置場所の検討	トイレ/匂い/生理用品	
	脱水症状	暑さ対策	着替え	
		サポーターズクラブの出番バンザイ！	怪我	
		お互いに声をかける	泣き声/睡眠	
			薬	
男性グループ			他人への思いやり/お隣	
	災害の正確な情報が得られるか	近所の人に呼び掛ける	避難所では、指揮できる人がその場にいるか	しっかりとした統率者が必要
	実際に避難するかどうかの判断	顔見知りならよいが知らない人には、声をかけにくいし、声をかけてよいか迷う	吉田方小学校だけで、多数の避難者が入れるか	
	避難をすとしたら家族に連絡がつくかどうか	連れ出した場合の事故も心配	どこにどうしてはいるか心配	
		ペットの対応	家族、知人の消息を知るには？	
			場所取りでもめる	区切りや通路を確保する
		1日～2日なら何とでもなるが、長期になった場合は、どうなっていくのか？	現場責任者が必要	

5. 災害想定：真夏 火曜日 2時

		発災から避難するまで		避難してから	
		どのようなことに困るか	対策	どのようなことに困るか	対策
女性グループ	深夜の為、暗いので不安			トイレ	
	避難するかどうか判断に困る			授乳中	
	子どもは大丈夫か不安で動けない、どうしていいかわからない	子どもの安否確認		離乳食の確保	
	暗いので動けずじっとしていると 思う	まずは懐中電灯をつける		トイレ	小学校の施設活用
	家族は大丈夫か、動けない	家族で声を掛け合う		人員の点検	
	家具は倒れないか			食料	
	子どもが2人いて、主人が夜勤の週があるので、主人がいなかったら、1人で子ども2人をどうしたらいいのか不安	自分の命は自分で護る。		水	
	まずは、動けない。犬を抱く	懐中電灯の場所、電池の確認		衣類	
		情報収集をする。ラジオ(電池)		暖房があるか	
				毛布や衣類は？	
				証明がないと暗い	
				近所の人の否	
				一人暮らしの人の安否	
				運動靴の準備	
			信頼サービスの試用をしておく		
男性グループ	灯り			ゴミ	
	集合場所			安否確認	
	室外に逃げれるか	出口確保→通路の確保→物をおかない		怪我の状態	
		避難袋の常備		害虫対策	
		懐中電灯は常に枕元に置く			
		懐中電灯は個人個人			
		とりあえずのあかりは携帯の灯り→常に満充電			
メガネは枕の下へ、飛んでいかないように					

付録6 災害イメージトレーニングのワークシート結果 (2)【牛川町】

1. 災害想定 冬2月 日曜日3時(1)

男女混合グループ	発災から避難するまで		避難してから	
	どのようなことに困るか	対策	どのようなことに困るか	対策
	空腹感が増してくる	近くのコンビニ等 に買い出しに出かける。	あたたかな食事を望むよ うになる	避難場所に応急の調理 設備の設置
	体が冷えてくる		救護物資だけでなく体調にあ った食事を要求するようになる	人的パワーの応援(調理 ボランティアなど)
	暗闇		毎日の食料量が確保できてい るか	食品の管理方法はでき ているか
	のどが渴く	水を用意(バケツな ど)	規則正しい食習慣が必要にな る	調達方法は継続的にで きているか
	温かい食べ物が必要となる	とりえず冷蔵庫の中 の食べ物で間に合わ せる。	腹がすく	数時間後からコンビニは 開いているか
		インスタントラーメン	衣料品・食事・風呂・暖房	自治体の指導
		カンズメはあるか	避難場所	役割分担 指示・統制・ 組織ができているか
	避難者全員に公平にいきわたっ ているか	菓子パンを用意		リーダーの指揮
	温かい飲み物が必要となる	温かい飲み物がほし くなる		
		水が確保できている か		
		なべ・やかん・ガスコ ンロ		
	赤ちゃんのミルクが必要になる	備蓄食品の確保 場所は誰が知ってい るか		
		食事・炊事道具はど こに行けばあるか		
	自宅の被害状況	自分の身の回り品		
	火が使えない	備蓄されている食べ 物で空腹を満たす(と りあえず)		
	水道が止まる			
	ガスはどうか			

2. 災害想定 冬2月 日曜日3時(2)

発災から避難するまで		避難してから	
どのようなことに困るか	対策	どのようなことに困るか	対策
	人数分の食事	備蓄していた食料が少なくなる	食料の調達
朝食が欲しくなる	防災メンバーが自治会、避難者をまとめ、コンテナから食品を出す	非常食がなくなる	食料品の調達
おなかが減る	飲料ペットボトルを配布	備蓄していた食料が少なくなる	インフラの復旧
のどが渇く	加熱する設備	非常食がなくなる	避難所で何が足りないのか
温かい食べ物・飲み物が欲しくなる	カセットコンロ・七輪	避難者数が増える	食べる場所の確保
寒いので、温かい食べ物・飲み物が欲しくなる	発災前からの備蓄が必要	救援物資がばらつき、不足品が出る	個人スペースの確保
飲み物が欲しい	非常食などを備蓄しておく	弱者発生・乳児・病人など	物資の整理と不足品の発注→市・県・他
温かいものが欲しい	ペットボトルのみなど備蓄しておく	役割分担をするためのスキル調査をする	食べ残しなどの管理
自治会防災会で役割負担決め	防災自治会が倉庫より調理器具を出し、準備をする		1人あたりの提供量のルー化
	(人員確保)		調理器具の調達
			調理スペースの衛生管理

3. 災害想定 真夏・平日・15時

発災から避難するまで		避難してから	
どのようなことに困るか	対策	どのようなことに困るか	対策
何が起きる？	対策	何が起きる？	対策
水不足		ミルク・不足	炊き出し(防災リーダー)
食料不足		ビタミン不足・野菜など不足	消毒(市)
加工燃料(木くず、紙、マッチ、ライター)		食材の種類が限定	
食事用火器器具		ペットの食事不安	
簡易コンロ なし		食事の数量の確保	
木炭		空腹になる(食事をしたくなる)	食材・調味料が必要
ライフライン		避難していない人にも炊き出しの情報を出す	
		電気など復旧情報をあつめる	
熱中症になる	横になるマットが必要(休息)	炭水化物以外の食料難	
	冷たい飲み物が必要	(肉・魚・入手困難)	
	水などの準備	歯磨きをしたくなる 水が必要になる 歯ブラシ 歯磨きが必要になる。	
	買いたすためのお金	水道が止まって復旧しない 場合、飲料水がなくなる	
	水の確保	水不足(脱水症状)	水の出る避難所に給水に行く
	給水車・防災井戸・スーパーなど		食べ物のグループ化
	ペットボトルび飲料水を準備		①乳幼児用
	(2L×6本)		②子ども
	備蓄物質を配る(防災委員タ方)		③大人
	近隣者の持ち寄り		④老人
	雨水を集める		それぞれの用途に分ける コーディネーター
	バケツ・ペットボトル		
	支援物質をたのむ		
	冷たいものが欲しい		
甘いものが欲しい			

	発生直後		
	・備蓄(各家庭での確保量を調べる)		
	・炊き出し、グループ(買い出しグループの編成)		
	・発生直後・水(飲み水)の確保		
	・食材の確保		
	炊き出しの世具		
	・備蓄されている量の確認		
	・コンビニ・スーパーから買い出し		
	・(発生直後)		
	・トイレの確保		
	・非常用トイレ		
	・三菱ケミカル		
	浄水装置の法用		
	・調理に必要な鍋・フライパン		
	・包丁・カセットコンロを日ごろから準備		
	・冷蔵庫内の傷みやすいもの		
	生食品を調理	冷蔵庫内の食料は解凍されるまで残す	

付録7 吉川町 災害イメージトレーニングの感想(1)

アンケート回収 42名 参加者54名

アンケート回収率77.8%

表1

男性	女性	合計
27	15	42

表2 参加者の性別・年代

	30代	40代	50代	60代	70代
女性	0	4	3	2	2
男性	4	8	7	6	6

表3 災害イメージトレーニングは、防災イメージをつくる上で参考になりましたか？

参考になった	まあまあ参考になった	どちらともいえない	あまり参考にならなかった	参考になった
39	3	0	0	0
92.9%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%

表5 災害イメージトレーニング 感想 イメージ

感想	イメージレベル	行動レベル	対応レベル
小さい子供3人抱えての避難行動、はじめてイメージした。	1		
夜勤のお父さんとの連絡方法の確認	1	1	
隣に高齢者夫婦がいらっしゃるの、日ごろから声をかけます	1	1	
ペットのことが気になった	1		1
女性の着替え、トイレの確保	1		1
生理用ナプキンも、避難所に置いておいてほしい	1		1
インフルエンザになったら、避難所に入れないので、どうしようかと	1		1
避難所が海拔が低く、津波がくるので、第二避難所が必要である。	1		1
避難していいものか、情報がないので、判断に困る	1		1
さっそく、家族で話しあいを行います	1	1	

ペットのことが気になる	1		1
持病の薬は、もっていかないといけないといけないと思った	1		
メガネは常に2つ準備しておく	1	1	
介護をしているので、どうしたものやら・・・	1		1
夏は、虫刺され用の薬や消毒、冬はインフルエンザはマスク、うがいの水がない	1	1	1
漠然と不安をかかえていないで具体的に行動に移す	1	1	
出た意見をよく読んで知って次回の防災計画に生かしたい	1		1
最も大切な事は、より具体的に対策を考えておくこと。各家庭・時間などにより、何パターンも予測して見る。	1		
こまごまとしたことはまだ未確定なことが多いと感じました。	1		
家族の安否	1		
子どもの安否	1		
子どもが学校の時間であれば、子どもの安否がまず心配	1		
高齢者夫婦なので、なにかと心配	1		
旦那の安否	1		
女性リーダーの意識をさらに進める	1		1
誰が、実際、リーダーになるのだろうと思った。みんな被災者になるので、誰でもできるようにする必要があるけど・・・	1		
役割分担も明確化などは必要かと。	1		1
すごく面白かった。一人一人が考える方法、真剣にやった	1		
ルールづくり	1		1
トイレ問題	1		1
男性が気が付かない面があるので、配慮したい。	1		
女性でも年代が違くと課題も異なる	1		
くじで災害を決めることも良かった。	1		
	31	6	14

※「イメージレベル」とは、災害イメージトレーニングからある事象をイメージすることができる

※「行動レベル」とは、災害イメージトレーニングから課題に対する行動をイメージできている

※「対策レベル」とは、災害イメージトレーニングから、とるべき対応及課題をイメージできている

付録7 災害イメージトレーニングの感想(2)

牛川校区6町内の防災委員、防災士などと牛川小学校教頭と校長 19名（女性2名）無回答5名

年齢	性別	記載内容
40	女	大変勉強になる部分がありました
50	女	イメージすることでこれまでの自分の予備知識の不足を再認識することができた。
30	男	できていないことが多いと思った 校区でも色々で見直したほうが良いと思った 季節によっても必要なものが変わるので、異なる対応をした想定した準備が必要だと思った
40	男	被災した経験がなく、具体的に考えたことがなかったので、イメージトレーニングで出すことができなかった。 今後はもう少し危機感を持って準備しようと思った
40	男	自助力の不足点があらためて分かった。 共助は自助以上に思いつかず難しかった
40	男	限られた時間だったので、深く考えることができなかった
50	男	大変勉強になった
60	男	気が付かないことが多く、自分の思っていたことが役立たないと思う、という意見が多かった
60	男	監理、整理…難しい。 いつもはあまり意識していないが、必要ですね
60	男	教科書に書かれているようには、当然できないのは分かりますが、時間がたてば必然的にできてくるのではないかと思う
60	男	無記入
70	男	まだまだやることが多くて一つ一つを準備していくことがタオ説だと思った
70	男	それぞれの場面（今回は食）で考える必要があった。得て認識できてよかったと思う
70	男	難しい

謝辞

本研究を行うにあたり、東三河地域防災協議会の事務局をはじめ、24地区の自主防災会の選定にご協力いただきました、東三河地域防災協議会のご担当者、アンケート調査にご協力をしてくださった自主防災会の方々、追加調査にご協力いただきました大平地区、栄町区、吉川町の自主防災会の代表者様、「災害イメージトレーニング」の実施にご協力いただきました「吉川町」と「牛川町」の自治会長と住民の皆様に、心より感謝申し上げます。

また、この報告書の作成や実施するにあたり、様々なご指導・助言を賜りましたNPO法人リスクマネジメント研究会・代表・彦坂高志氏、田原福祉専門学校・嘱託職員・長谷川彰氏に深く感謝いたします。

私共の研究成果が、住民の自助力や共助力を高める防災活動に役立ていただければ、幸いです。

平成30年 2月

東三河地域防災協議会委託研究メンバー
豊橋創造大学短期大学部専攻科福祉専攻

代表者：大林博美

朝倉由美子

佐々木将芳

村上貴子